

TOKYO URBAN TECH

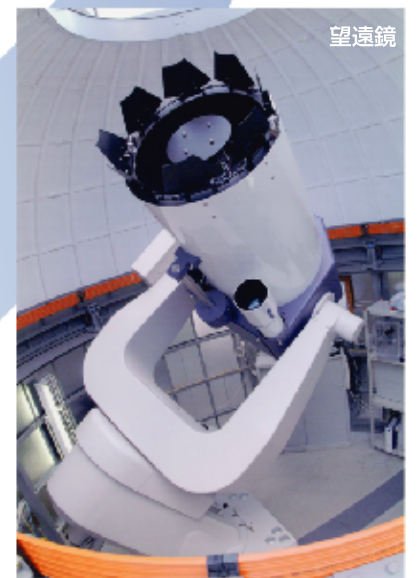
工学院大学 校 友 会 報

ホームページアドレスが変わりました

<http://www.kogakuin.or.jp>



高等学校 新校舎



望遠鏡

工学院大学技術士会(仮称) 設立準備会の発足

“技術士” 資格取得者の皆様へ

この度、工学院大学技術士会（仮称）設立準備会が発足しました。校友の方で技術士の資格取得者は、この準備委員会へ参加・登録をお願いします。

登録先

TEL：03－3342－2064；校友会事務局長 渡邊 征一郎
E-mail：jimul@kogakuin.or.jp

または、

TEL：03－3340－0359；企画室長 阿部 正則
E-mail：office@cpd.kogakuin.ac.jp

工学院大学技術士会(仮称)設立準備会

発起人代表

機械工学科教授 水野 明哲

TAKE国際技術士研究所代表 黒澤 兵夫

【目次】

校友会の存在価値を：長嶋秀世	1	生態学と土木工学の接着剤：辻 正宏	30
学園の役割：大橋秀雄	2	「新校舎と教育課程について」：竹花有也	32
工学院大学・3学部体制のスタート：三浦宏文	4	“へんびな” 工学院中学校の生徒募集を支えた生徒たち：橋本 勉	33
学園の近況から：中澤宣也	6	再び琵琶湖へ：飯田明由	34
附属高等学校新校舎の施設：淀川英司	8	校友会 校友会事務局からのお知らせ	35
新しい器に新しい教育を		平成18年度支部総会開催予定	35
～新校舎竣工の年を迎えて～：城戸一夫	9	校友会役員一部変更の件	36
科学・技術立国の再構築へ向けて：太田忠之	10	社団法人工学院大学校友会個人情報保護政策(案)	36
学園トピックス	11	「第61回評議員会・第50回総会」開催のお知らせ	37
第15回全国大会のご報告：外川譲二	15	学生・生徒の表彰報告	37
支部だより	16	平成17年度貸借対照表、平成17年度財産目録	38
究極的コンパクトな折り畳み自転車の開発ストーリー：塩田 清	22	受章・受賞、訃報	38
研究雑感		平成17年度事業報告、平成18年度事業計画(案)	39
—学生と過ごした5年間を振り返って—：小野幸子	24	平成17年度収支計算書、平成18年度収支予算書(案)	40
四国EVラリー優勝報告：竹本正勝	26		
輝かしき先輩たち			
—山田風太郎のように現代に蘇らせたい：類洲 環	28		

校友会の存在価値を

工学院大学校友会・会長 長嶋 秀世



今年は、イタリアのトリノでオリンピックが開催され連日テレビをにぎわしていました。ここで、日の丸を掲げ、君が代を演奏させるのは並大抵ではありません。小学校に入る前から一つのことに集中し、全てを投げ打って練習を重ねてきた成果が一瞬で決められます。だから見ている人を感動させるのでしょう。不思議なもので、オリンピックやワールドカップになるとわか愛国者が増えるのか、あるいは卒業式に日の丸を掲げるのを反対する人達が憂心するのかわかりません。ただ言えることは、多くの人に尊敬されるような立派な人や世の中で成功されている人達は家族、友人、隣人、そして国を愛しており、母校を愛しています。

さて、校友会は母校の発展と卒業生の親睦、交流を目指して活動しています。私たちは、校友会の目的に沿った活動を行うために、支援プロジェクト、大勢集まろうプロジェクト、体育会連合OB会支部および教職員支部の結成、大学後援会との連携、政策諮問委員会設置などを実行してきました。

しかしながら、校友会はこの十何年間、旧来の伝統を守り、単体同窓会を中心に毎年決められた行事だけを行ってきました。従って、新しいことを行うには多くの抵抗があり、まだ思うような活動ができているとは言えません。昨年の新年会でも申しあげましたが、改革とは既得権益との対決であると。校友会は一部の人のためにあるものではありません。卒業生を幸福にする使命があります。学園にもその存在価値を認めてもらえるものでなければなりません。校友会はもう、組織改革を断行しなければいけない時期にきています。本来の目的（定款第2条）を忘れてはなりません。

さて、校友会の運営は、会長および各単体同窓会から選出されている2人の常任理事で構成され、日常の業務が遂行されます。さらに単体同窓会から選出された49人の人達で構成される理事会と年に1度

開催される評議員会と総会で予算、決算など重要なことが決定されています。

従来の校友会では、常任理事会、理事会の内容は評議員、全国の支部長には知らされていませんでした。今期の体制になってから、民主的な運営のために最も重要な要件の一つである情報公開の原則に則り、すべてオープンにするという考えで、これらの議事録を理事と全国の支部長に配布しました。しかし、前役員より校友会が内部情報を開示したとしてクレームがあり、残念ながらこれ以後は情報を公開していません。一部の人達には、「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」という言葉をよく理解して行動することをお願いしたいのです。

あるとき、大橋理事長は私に「卒業生は学園の鏡である」、その心は「卒業生は学園の教育の実態を写している」と言われました。人は無限の可能性を持っており、教育次第では驚異的な成長をする人もいます。知識を詰め込んだだけの教育ではダメで、愛情を持って学生に接しなければならないと思います。社会的には、卒業生の活躍無くして学園の評価はあがりません。

卒業生には自身の目標や事業に成功して欲しい、金銭的にも精神的にも豊かな生活をして欲しいと願っております。そして、余裕があれば金銭的な寄与をして欲しい。また、金銭的に余裕が無くても時間的な余裕があれば、ボランティアで、あるいは口コミで母校の発展に貢献して欲しいと思っています。

ご存知のこととは思いますが、学園はいま、大きな改革を行っています。これらを成功させるためには、我々校友一人一人のバックアップも必要で、母校を積極的にアピールしていきましょう。

最後になりましたが、理想的な校友会を実現するために、校友各位の暖かいご支援とご協力をお願いすると共に校友の皆様が、ますますご健勝で、ご活躍されることをお祈りします。

学園の役割

工学院大学

理事長 大橋秀雄



21世紀を迎えてはや5年が過ぎ、これから最初のDecade（2001～2010年の10年間の意）の後半に入ります。2006年度は学園にとって特別な年で、大学では情報、グローバルエンジニアリング両学部の新設、高校では新校舎落成を機として、確かな将来に向けて一段と取り組みを強化します。大学、中学・高等学校、専門学校の取り組みについては、それぞれの学長、校長からの報告にお任せすることにして、今回は学園と校友会の役割について、私の考え方を述べさせていただきます。

学校は学ぶ場所か

学校が学ぶ場所かといえば、中高、大学を問わずもちろんyesです。

これまでは、学ぶことと教わることの区別が、あまり意識されませんでした。学ぶ（learn）という動詞の主語は当然学生です。一方教える（teach）という動詞の主語は先生で、学生は目的語になっています。教育する（educate）の主語も同じく先生です。これから分かるように、学ぶことは能動的行為、教わることは受動的行為と区別されます。

これまで学校では、もっぱら受動的行為が支配的でした。しかし人間は一生教えてもらって過ごすわけにはゆきません。いつかは、自ら学ぶことが必要になってきます。自ら学ぶ能力は早い時期から身に付けた方が良いというので、学校教育でも学ぶことが重視されるようになってきました。JABEEの認定を得るためには、自主的、継続的に学習できる能力（自己学習力）を保証する必要があります。

国際的に見ると、最近では教育educationに代わって能力開発capacity buildingという表現が使われることが多くなりました。教育は受動的、能力開発は自分で自分の能力を伸ばすという主体的響きが強く、これからは能力開発の時代です。

少子化が進む中、学園で学ぶものの対象を若年層から壮年、熟年にまで広げる目的で、法人組織の中に継続能力開発センター、略称CPD（continuing professional development）センターを設けています。生涯教育センターといった方が分かりやすいかも知れませんが、敢えて主体性を重んじた名前にしました。

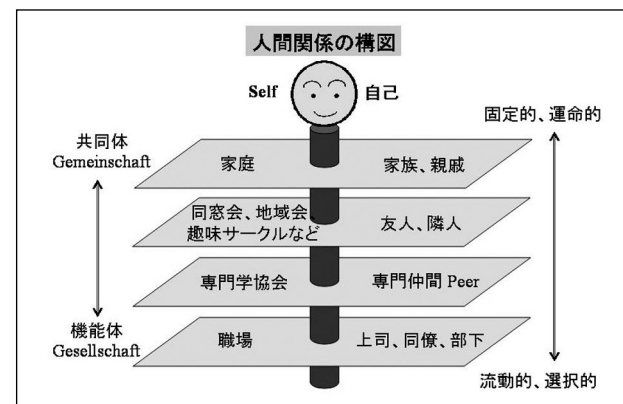
学校は学ぶだけの場所か

これは明らかにnoです。学ぶだけだったなら、eラーニング（e-learning：パソコンやコンピュータネットワークを利用して教育すること）を始めとする遠隔教育でも可能で、IT技術とブロードバンド環境の進歩につれて、学校が壊滅する恐れもあります。

掛け替えのない学校の存在価値は、若者の人間形成を助ける場を提供することにあります。校友の皆さんは良くお分かりと思いますが、卒業後長らく経つと、学校で教わったこと自体より、そこでどんな師を持ったか、どんな友達とどんな苦労を分かち合ったかの方が、鮮烈な記憶として残ります。校友を結びつける絆は、まさにそこにあります。

人間関係の構図

多くの社会人は、朝家を出て職場に向かい、上司・同僚・部下という職場の人間関係の中で夕方まで仕事に励んでいます。仕事が終わって帰宅すると、家族の人間関係の中に身を置いて、休養と団らの時を過ごすことになります。毎日忙しく働いている勤め人は、家庭と職場を行き来しながら、その二つの関係がいちばん密接で不可分だと思ひこんでしまいます。果たして本当だろうかという疑問から、下図に示す人間関係の構図を考えてみました。



人間は、個体としてはヒトですが、ヒトとヒトとの間（人間）の様々な相互関係の中で生きる社会的存在であるところに特色があります。一人ひとりの自己selfは、上図に示すように、多層的な人間関係の上に成り立っています。家庭（最上段）や職場（最下段）の人間関係以外に、学校や同窓会、地域の会、運動や趣味サークルなどの繋がりを通じて、友人や隣人関係を築きます。また、専門学協会の会員になると、専門仲間peerという関係ができます。最近増えてきたNPO活動やボランティア活動を通じた仲間との関係は、専門学協会の関係に近いものになるでしょう。

上図では、以上述べた四つの代表的な関係を、固定的・運命的か、あるいは流動的・選択的かという観点から、上から下へ並べてあります。職場の関係は、就職・昇進・移動・転勤などのたびに大きく変わるし、離職や退職によって消えてしまいますから、流動的かつ選択的です。これに比べると、学協会を仲立ちとする関係は、自分の専門性を捨てない限り安定して存続するし、家族や友人関係は、生涯続くのが前提です。このような固定的かつ運命的な関係は、ときに「しがらみ」と感じることもあるでしょう。

人の集まりである団体や組織は、その性格に応じて共同体（ドイツ語でゲマインシャフトGemeinschaft）

と機能体（ゲゼルシャフトGesellschaft）に分類されます。代表的な共同体は同窓会や草野球チームのようなもので、縁や団結心や共通の興味で結ばれた人の集まりです。自分で飛び出さない限り、辞めさせられることはありません。一方代表的な機能体は民間会社で、目的を実現するために機能を分担する人々の集まりとなります。その見地に立つと、上図の関係は、上から下へ、共同体の性格から機能体的性格に移っています。

校友会

校友会は、校友という絆で結ばれた集団で、共同体の典型です。しかしそれが組織である以上、その組織を経営しなければなりません。昨年末に亡くなった経営の神様ピーター・ドラッカーは、経営の本質とは、その組織が ①何を達成しようとしているのか ②その成果をどう評価するのか ③独自の強みは何か、をはっきり意識することだといっています。

長嶋秀世校友会会長は、先日の校友会新年会の挨拶の中で、校友会の目的は校友をハッピーにすることだと言い切りました。これは上記①に対する明確な回答で、素晴らしいことです。②と③を続けてははっきりさせて行けば、工学院大学校友会は、ドラッカーに誉められるような共同体になることでしょう。

私は、学校法人工学院大学の経営に責任があります。これから学園の①②③を明確に表現し、それを全員が共有して強い存在になりたいと思っています。

校友会と学園が、自転車の前後輪でなく、一軸の左右輪のように助け合いながら前進する姿を夢に抱いております。

校友の皆様が、校友会と学園を、生涯にわたる自己開発の場として活用して下さることを大いに期待しております。

以上

工学院大学・3学部体制のスタート

工学院大学

学長 三浦宏文



1. はじめに

平成15年4月に、学長室が設置され、まず、本学の取り組むべき課題を整理し、優先順位の高いものから具体的に解決するための施策を講ずるべく議論を始めました。

検討した多くの課題の中で、優先順位が高いものとして、本学の学部編成の再検討に関するものがあげられました。そこで、時間を区切った効率的な議論の中から、本学の選択すべき方向性を明確にすべきとの意見から、「工学院大学21世紀プラン作成委員会」の発足が提案され、設置されたのが、平成15年10月1日でした。

議論は、下記の二つのPhaseに分けて行われました。

- (1) Phase I：単科大学から、視野を広げて、複数学部へ転換する大綱案を議論
- (2) Phase II：新学部、新学科、既存学科の再編の中身、教育方法の改善案などの議論

新学部の名称、内容、既存工学部の改編などについて、かなり激しい議論が頻繁に繰り返されました。シンポジウムを開いて、意見を交し合ったり、いろいろ揺れ動きましたが、大学改組の基本的な方針がまとまり、改革推進本部（本部長：理事長、副本部長：学長）が発足したのが平成16年10月1日でした。その後、具体的な議論を進め、平成17年の1月には、現在の形に最終的にまとまりました。

以下に紹介しますように、新学部としては、情報学部とグローバルエンジニアリング学部の2学部が生まれました。既存工学部の中では、大きく変化があったのは電気系（電気工学科、電子工学科、情報工学科）で、電気システム工学科、情報通信工学科が工学部の中で新学科となり、情報工学科の主にソフトウェアの部分が情報学部の方へ移りました。

また、応用化学科の中に、バイオ関係の2研究室が増設されました。

2. 電気系3学科の改編

本学の電気系は、発足以来の電気工学科をベース

にして、電気関係の学術・技術の進歩発展に応えるためにまず電子工学科を加え、さらに情報工学科を加えて3学科体制になりました。電気工学は、過去の、経済・産業中心の工学から、現在は、生活・福祉を重視する工学として、安全・安心、利便性・快適性の追求を念頭に置いた技術を中心とする学問への転換が求められています。

この狙いを実現するためには、伝統的な動力を中心とする電気工学の分野は不可欠ですが、単に動力のみではなく電力システムとして広範囲に電気をとらえる必要があり、電気工学科を中心に改編し、電気システム工学科を設置しました。

電子工学科は、非常に広範囲な物性物理工学のイメージが持たれるあいまいな名称なので情報化社会の基盤を支える情報・通信分野に力点を置くことが明確に示すことができるように、情報工学科のこの関係の部分と合わせて、情報通信工学科を設置しました。上記2学科は、ハード系を主体とすることには変わりはないので、既存の工学部の中の新学科としました。

2. 1 工学部・電気システム工学科

電気システム工学科では、現代のあらゆる社会・産業活動と家庭生活に深く密接な関わりを持つ電力、エネルギー、動力、照明・電熱、通信・放送、計測・制御などの主要分野に加え、情報（IT）とシステムの実践的技術を習得するカリキュラムになっています。

社会的見地から、地球環境や持続型社会を支えることの重要性を意識し、“エコロジー”のキーワードを常に念頭において活躍するような創造性豊かな電気技術者を育成することを目的としています。講義や実験で現れるキーワードを並べましょう。

エネルギー発生に関しては、基盤エネルギー（火力・水力・原子力発電、燃料電池）、エコエネルギー（太陽光・風力発電）など、エネルギー輸送に関しては、電力ネットワーク、コジェネレーションな

ど、エネルギー利用に関しては、省エネルギー、電気自動車、リニアモーターカー、ホームエレクトロニクス、ロボット、福祉・介護機器など、電気システムに関しては、動力制御システム、照明システム、ビル電気システムなどです。

2. 2 工学部・情報通信工学科

文字、音声、画像などいろいろな情報をいつでもどこでも利用することができる「ユビキタス社会」の実現には、高度な情報通信ネットワークの構築・運用技術と情報通信機器の開発が不可欠です。

情報通信工学科では、これらに携わる人材を育成します。電気磁気学、電気回路、電子回路などをベースとして、情報通信システムやネットワーク運用、マルチメディアなどの情報通信工学を学びます。

ここでも、キーワードを幾つか並べておきましょう。基礎的な知識に関しては、回路理論、デジタル・アナログ電子回路、電子デバイス、電気磁気学、コンピュータアーキテクチャ、情報理論など、情報通信技術に関しては、情報通信ネットワーク、通信方式、通信工学、移動通信など、メディア技術に関しては、セキュアシステム、音声・音響工学、画像工学、マルチメディア工学などです。

3. 情報学部

これまでの電気系3学科の中の情報系に関しては、ソフトウェアを中心とする情報系の学部の充実を図る必要があり、既存の情報工学科をコアとしながら、追加すべき領域については学外から人材を求めて、コンピュータ科学科と情報デザイン学科の2学科からなる情報学部を設置しました。

情報学部の大きな特徴は、4年間を通して、新宿キャンパス中心に学習することです。

3. 1 情報学部・コンピュータ科学科

情報化社会の急速な進化の中で、データ化された情報の安全性が大いに問題になってきています。安全性に対処すべき新しい技術の確立が急がれています。コンピュータ科学科では、快適で安全な情報

化社会の実現に必要なとされるソフトウェアの専門技術者を育成します。コンピュータネットワークの構成技術、利用技術などをコンピュータの仕組みの基本からはじめて、系統的に学びます。ロボットや人工知能のためのソフトウェア開発など身近で、興味深い課題が多く取り扱われるでしょう。

3. 2 情報学部・情報デザイン学科

「人とコンピュータとの調和」を基本理念に、ソフトウェア・デザインを学びます。人とコンピュータのインタラクション（相互作用）、感性コミュニケーション、映画やゲームのデジタルコンテンツなど、人々が快適に生活するために不可欠になりつつある分野に関する技術の専門家を育成します。ゲームコンテンツ制作企業と連携して、現場の技術者からの実践的教育を導入する計画もあり、工学の域を超えた、楽しいカリキュラムに取り組みます。

4. グローバルエンジニアリング学部・機械創造工学科

世界で通用するグローバルエンジニアの育成を目的とした日本初の学部です。これまでの国際基礎工学科を発展させたもので、さしあたりは機械創造工学科の1学科です。生きた英語力を身に付けつつ、海外で事業を成功させるマネジメント力や国際理解力を徹底して養成します。企業から提供されるテーマを企業のエンジニアと学生チームが共同しながら、学生自身が解決法を見出すという学習法ECP（Engineering Clinic Program）も特徴のひとつです。全員が海外研修を経験するカリキュラムになっており、未来指向の学部といえます。これまでの枠にとらわれない創造性豊かな技術者が、どんどん生まれることを期待しています。

5. おわりに

大学を取り囲む環境は、現在大きく揺れ動いています。わが国の教育そのものが大改革を迫られているといってよいでしょう。本学も、留まることなく、より良い方向へ変化を続けなければなりません。校友会の皆様の変わらぬご協力をお願いいたします。

学園の近況から

工学院大学

常務理事 中澤宣也



校友会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、昨秋は弘前での素晴らしい全国大会にご招待頂き、大変楽しい思い出を作ることができました。厚くお礼申し上げます。

本学園も119年目に入り、125周年を目指して準備を始める時期になりました。創立以来、技術者養成の教育機関として確固たる地位を維持し続けることが出来たのも、多方面にわたって活躍される校友の皆様のご支援によるものと感謝申し上げます。

さて、昨年秋、「週刊東洋経済：特集 本気に強い大学」誌上で、私立大学総合ランキング第15位にランクされ、特に経営革新力は11位、就職力13位と、勢いのある大学として評価されました。また、「週刊ダイヤモンド：特集 出世できる大学」でも私立大学25位にランクされており、校友の皆様のお力によるものと、改めて感謝申し上げます。弘前では、何事も第1位を目指せとの暖かい励ましも頂いており、尚一層努力する所存です。

以下に、学園の最近の活動の歩みの中から、二、三ご報告致します。

1. 次期中期計画の策定

本学園は、Jump 21（'96-'00）、Start 21（'01-'05）の各5ヵ年計画にしたがって、学園の改革、改編などを進めて参りました。しかし、昨今の変化の激しい時代に、5ヵ年の具体的な計画、工程表を作成することは難しく、現実にそぐわない面も出て来ますが、学園構成員が、共通の目標、価値観と環境認識を共有し、学園の発展に努力することは大切なことです。そこで、若年人口減少によって厳しい経営環境にあるこの時期を、一丸となって努力しようとの気持ちから、現在、次期中期計画「Dash 21 '06-'10」を策定中であります。今が頑張り時との思いを込めてのネーミングです。

「Dash 21」においては、手弁当で技術者育成のために集まった先達の原点に立ち返り、「プロを育てるプロ」をモットーに、世界で通用するProfessional Engineerを育成するProfessionalな教員、また、その運営のプロの職員たらんと、叡智を集めて行く所存です。その中で、「学ぶ喜び」を学生・生徒と分かち合っていければと願っております。

本計画の骨子は、本年5月末には公開する予定です。その実施にあたっては、校友諸氏のお知恵も拝借し、企業における事業計画実施の手法も導入しながら、実施状況が目に見える形にしたいと考えます。

2. グローバルエンジニア

本年4月から、グローバルエンジニアリング学部が発足します。全国には、多くの工学部が存在しますが、それらの学部・学科との差別化を図る必要があります。この学部は、国際基礎工学科で培われたコンセプトを前面に押し出し、本学の特色としてアピールするためのフロントランナーの役割を担っています。技術に国境はありませんが、地球を股にかけて活躍するには、島国日本では、それなりの人間力教育が必要であるとの考えで、独自のカリキュラムが組まれています。海外研修も必須です。この学部のコンセプトを世間にアピールするために、日経BP企画社から「グローバルエンジニア」（古屋興二教授編著）という本を出版しました。経団連の次期会長の御手洗富士夫氏にも推薦文を寄せて頂いております。グローバルエンジニアの概念と、世界におけるその教育の実情にも触れ、本学が日本のトップランナーであることが紹介されています。是非、書店でご購読の上、ご意見などをお寄せください。

3. 生涯学習機会の提供について

工手学校以来の伝統を引き継いできた専門学校は、平成18年度から募集を停止することになりました。誠に忤怩たる思いですが、社会人の夜間教育という工手学校の確固とした伝統を引き継ぐ上でも、生涯学習のための種々の機会を提供することは、交通至便の地にある本学の大きな使命です。平成18年度中には、本格的に社会人教育に取り組む体制を立ち上げる予定です。現在、進行中のプログラムを幾つかご紹介します。

（1）「セキュアシステム設計技術者の養成」

平成18年度は、この講座の4年目となります。2年目から講座を開設し、既に84名の社会人、院生が卒業しました。18年度も100名を越える方が応募され、40名の受講生を選抜する予定です。昨年は、「IT社会における医療システムの構築」について、グループ毎の課題研究も実施しました。これらの講座の成果は、情報学部や大学院情報学専攻のプログラムに反映されています。

（2）知財連続講座

平成17年度も、電気会社、食品会社、自動車会社等の知財部長を講師陣に、6回の連続有料講座を実施し、多くの方に参加戴きました。また、12月には「知財と企業進出」のテーマで、中華人民共和国、フィリッピン等からの講師も参加して、国際シンポジウムを開催しました。18年度も知財分野の教育事業の展開をはかる予定です。

（3）技術士会の立ち上げ

ご案内のように、JABEE認定コースの卒業生は、修習技術者となり、7年間の実務経験のあと、技術士を受験できます。そこで、多くの卒業生が技術士の資格を取得できるよう、その支援体制を立ち上げるようにします。既に、技術士、修習技術者として

ご活躍の校友の皆さんを組織化して、支援体制を強化し、教育講座も開設したいと企画しております。校友の技術士の方々の名簿作りがその第一歩です。皆様のご協力をお願いします。

（4）資格講座の開設

建築士や、電気工事士等の資格取得に関連した講座についても開設準備を進めたいと考えております。

このような講座は有望だ、こんな分野は自分も講師として協力できるといったものがございましたら、どうぞ企画室へご意見をお寄せください。

4. 中等理科教育振興について

本学附属高校の校舎が新しくなりました。理工系大学の附属高のシンボルとして、立派な天文台も設置されました。4月から着任の太田校長主導のもと、特色ある理科教育校として発展することが期待されます。また、私共も協力申し上げている「楽しむ科学教室」を主催する「平成基礎科学財団」の小柴昌俊先生（2002年度ノーベル賞）が、このご縁から本法人の顧問に就任頂けることになりました。既に12回開催の実績を誇る「理科教室」、「理科論文」も合わせ、本学園の理科教育への取り組みが高い評価を得、本学を目指す若者が増えることを願っております。

おわりに

2007年度からの大学全入時代を目前にして、若年人口の減少圧力は予想を越えており、学園経営の基本の再検討を迫られております。Dash21計画を実りあるものとしながら、この厳しい時期を乗り切るためには、母校を物心両面で情熱的に支援して下さる校友の皆様の存在が一番の力であります。今後とも皆様の熱いご支援を賜りますようお願い申し上げます。以上

附属高等学校新校舎の施設

施設担当常務理事 淀川英司



附属高等学校校舎の新築工事は2004年12月に着工し、予定通り2006年3月に竣工の運びとなっている。基本設計責任者は、建築都市デザイン学科の望月大介教授、実施設計は㈱日建設計、施工は戸田建設㈱である。建設場所は、ほぼ旧校舎跡地であるが、やや北寄りにし、校舎1階南側にテラスを設けている。新校舎の建物の概要については、本会報の前号すでにご紹介しているので、今回は特徴ある施設・設備をいくつか取り上げご紹介したい。

(1) アトリウム

建物の中央部に設けられたアトリウム空間は、新校舎の大きな特徴である。天井までの空間のサイズは幅9.3m、奥行き33.6m、高さ17mである。天井からの自然採光により、明るくかつ開放感に富み、視覚的にもキャンパス生活の一体化が得られる構造となっている。1階はラウンジとしての使用のほか、さまざまな使用ができればよい。

(2) 屋上天文台

天文台を建物の西側エントランスの左側屋上に設置した。天体ドームは協栄産業㈱製の直径5mのステンレスドーム、望遠鏡は㈱昭和機械製作所製の口径40cm、F7 カセグレンタイプ反射望遠鏡である。中学・高校時代に広大で神秘に満ちた宇宙に実感を持って触れることは、生徒の物の見方や将来の生き方に必ずや良い影響を与えらると思う。

(3) 図書館

図書館は、建物の東側の1、2階に配置されており、高等学校校舎と中学校校舎との中間に位置している。中学校校舎とは連絡廊下で結ばれており、中

学生にとってもアクセスしやすい位置となっている。図書館の面積は、1階が約270㎡、2階が約340㎡であり、全体で旧図書館よりも約136㎡広がっている。

(4) プール

FRP製プール(25m×13m 6コース)を、図書館の北側、中学校校舎の西側地上に設置した。施工業者は、ヤマハ発動機㈱である。

(5) ISO14001対応設備

- (a) 水道水の無駄遣いを防ぐため、トイレ手洗い蛇口をセンサー機能付とした。
- (b) 省エネ効果、防音効果、温暖化対策等に配慮し、窓のガラスをペアガラスとした。
- (c) トイレ用水や散水に雨水を利用した。
- (d) トイレの照明を人感センサー方式とした。
- (e) 環境・エネルギー問題の教育効果をねらい、風力発電機(定格出力 20W)と太陽電池パネル(定格出力 120W)を備えた「ハイブリッド発電システム」一台をキャンパス北西部に設置した。納入業者は工藤建設㈱である。



新しい器に新しい教育を ～新校舎竣工の年を迎えて～

附属中学校・高等学校

前校長 城戸一夫



2001年度から供用を開始した中学校新校舎に続いて、任期の最終年度には、理事会の大きな支援を得て、高校新校舎が誕生することとなりました。新校舎は2003年中頃に構想が生まれ、望月大介教授を中心とする1年余にわたる検討と設計を経て、八王子校地再開発をめざした学園の5ヵ年計画「スタート21」の一環をなす大プロジェクトです。当初旧校舎本館と1号館を新築する構想は、中高全体の新装を重視する発想から3号館(図書館)の解体・新築へと発展しました。また新校舎屋上をよぎる高圧線の関係で屋上プールの構想は断念せざるをえず、新校舎と中学校校舎との中間の地上に再設置することとなりました。ISO14001認証校にふさわしい環境への負荷を軽減する工夫も随所に施されています。また生徒の動線を重視するほか、快適な生活空間を可能な限り実現するように設計されました。大職員室を設けて生徒にとって教員の居場所がわかりやすいようにし、学年担任団相互と生徒との関わりをより密なものにしようとするのも新機軸です。

最先端の設計と設備を誇る新校舎ではありますが、教育とは校舎という器を新しくするだけでは教育に対するさらに高いかつ永続する評価を得ることはできません。新しい校舎だからこそ、そこで展開される教育は斬新なものであるべきです。教員も、生徒も、保護者も、ともにこれまでの慣行・惰性・旧弊をいっさいかなぐり捨てて、ひたすらに新たな学び舎で熱い情熱をほとぼらせていくことを期待しています。これまでのあり方をどう継承させるか、あるいはどう改めるか、いわば連続と非連続をどのよう

に効果的に判断するか、これこそBreak Through(現状打破)の要諦といえましょう。教育内容や教育方法はもちろんのこと、学校行事やクラブ活動など一切を一度白紙に戻し、新しいシステムのもとで生まれ変わるくらいの意気込みが、特に教員に要請されます。

新装成る校舎の玄関を入った右上部には、“H A Λ H Θ E I A E Λ E Ψ Θ E P Ω Σ E I Ψ M A Σ”というギリシア語が浮き彫りされています。「真理はあなたを自由にする」という意味で、“エー・アレーティア・エレウテローセイ・ユーマス”と発音します。敗戦間もない1948年に制定された国立国会図書館法は、その前文に「真理がわれらを自由にする」という高邁な言葉を織り込み、真実を隠蔽されたまま世界大戦の暗黒に投げ込まれた人々に大きな感動を与えました。本校では、原典である新約聖書ヨハネ福音書にもとづき、「真理はあなたを自由にする」と刻みます。学問と研究の自由という伝統を千年余にわたり育んできたヨーロッパにおいて、この言葉はキリスト教の教義としてよりも、人文主義的・自由主義的な意味合いで解釈されてきました。私たちはこの言葉を生徒に、日々学び舎で発見すべきものは何であるかを、常に想起させる言葉として贈りたいと思います。

屋上には新たに450mmの口径を誇る天体望遠鏡を据えた天文台が設置されますが、これはまさに真理の探究者の象徴ともいえましょう。遙か幽遠の宇宙への探訪は、生徒の情操を育むうえで大きな役割を果たすことと信じます。

科学・技術立国の再構築へ向けて

附属中学校・高等学校

新校長 太田 忠之



4月1日に城戸前校長の後任として工学院大学附属中学・高等学校校長に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

これまで30年余教員養成大学におきまして、将来教師を目指す学生達の理科・物理学の指導を通して中・高の生徒を見てまいりましたが、これからは180度反対の側から生徒の立場に立脚しながら先生方の協力のもとに改革をさらに前進させることが私の最大の職責であると考えております。大橋理事長からは「特に理数科のレベルアップ」を要望されました。

振り返ってみますと、わが国を戦後の疲弊から驚異的に復興させ世界第2の経済大国に導いた原動力は高いレベルと広い裾野を持った科学・技術教育のたまものでした。経済活動は鉄鋼業、石油化学工業、自動車産業、半導体、コンピュータからIT産業と常に科学・技術を基盤にして発展してきました。この間、工学院大学は多くの優れた人材を送り出し、わが国の発展を支える役割りを担ってきたことはよく承知しております。「ジャパン・アズナンバー・ワン」とか「21世紀は日本の世紀」とも言われながらバブルの崩壊以降、わが国はなかなか新たな展望が

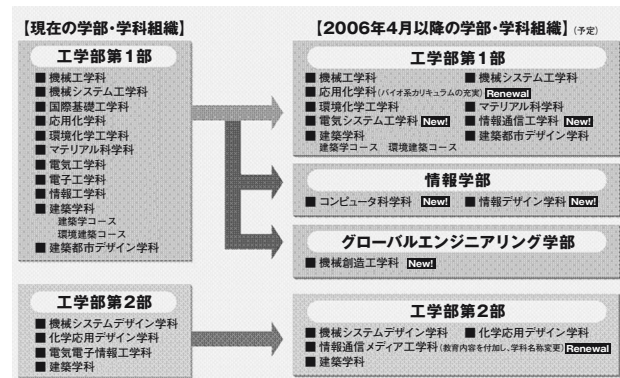
見出せず、今や21世紀は中国とインドの世紀といわれる状況の変化も見えています。しかし将来もわが国が科学・技術に立脚せずに国を支えていくことはありえません。そしてそれは今の若い世代の教育と彼らの意志にかかっています。長らく大学生の科学教育に携わってきた中でこの5～6年特に顕著に感じてきたことがあります。それは旧学術会議の第4部が2005年6月23日出した報告の中にも見られる通りです。「世界の先進諸国で若者の科学・技術離れが進んでいる。わが国では、とりわけ顕著である。彼らは科学・技術に支えられた豊かさは願っているが自らは手を下さない。学力も低下している。」と警鐘が鳴らされています。「答えだけ教えてもらいそれを覚えさえすればよい」という風潮のもたらした結果なのでしょうか。自らなぜと疑問を持ち、様々な考察と実験を試みる事をせずに科学の真髄に触れることは出来ません。広い科学的視野を持ち、自ら問い掛け、そして解決法を探るという科学の基本をきちんと身に付けた卒業生を送り出したいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

学園トピックス

2006年春、新学部・新学科誕生

工学院大学はこれまで、「工学部」1学部で工業技術者の育成に努めて119年。これまでに約9万人の卒業生を社会に送り出してきました。

2006年度より、より柔軟な教育を実践していくために2学部を新設し、「工学部第I部」「情報学部」「グローバルエンジニアリング学部」の3学部編成となります。



「グローバルエンジニアリング学部」は、企業から提供される生きた課題に学生が取り組むという画期的な産学連携型の教育プログラム「ECP」(Engineering Clinic Program)を柱としています。「情報学部」はコンピュータ科学科とともに情報デザイン学科を設け、デジタルコンテンツを創造する人材も育てます。情報デザイン学科の授業の1つ、「未来エンタテインメント」ではゲーム業界の大手「ナムコ」と連携した魅力ある授業を展開し、第一線の現場で活躍している専門家の講義や指導を受けることで、ゲームコンテンツをはじめとするエンタテインメント分野をリードする人材を育成する予定です。既存の「工学部」は新学部新設により再編されます。

情報技術者やグローバルなエンジニア育成の教育はこれまでもやってきましたが、新たに学部を設けることで、それぞれの教育フィロソフィがより実現しやすくなります。例えば、現代では技術者にも文理融合の知識が必要とされていますが、新しい学部では社会学や心理学など、目的に応じて文系の科目も取り入れることになります。

第5回ホームカミングデー盛況に終わる

ホームカミングデーは、学園各学校の卒業生に、大きく発展した学園の現状を直接ご覧いただき、懐かしい恩師や学友との再会と交流・親睦を深めていただくために、2001年から学園が開催している行事で、今年で第5回目を迎え、2005年11月3日に新宿キャンパスで開催されました。当日は、招待年次の卒業生、現在全国各地の中学・高等学校で教員をされている卒業生、校友会関係者、学園各学校を退職された元教員など、約250名の参加者を迎え、盛大に執り行われました。2006年度も11月3日に開催予定で、校友会も協力しております。招待された場合は是非ご参加ください。



JOB STATION開設

就職支援センターは、学生への就職支援体制をより一層強化するために、2005年4月、新宿キャンパスの就職資料室を大幅にリニューアルして、名称も「JOB STATION」と変更しました。リニューアル後のJOB STATIONは、企業からの様々な情報を集約、蓄積し、学生がそれを活用できる「情報の受信基地」となることを目指しています。

また、今回のリニューアルに合わせて、インターネット上で就職情報が得られる、企業・求人情報検索システム「JOB NOTE」を新規に導入し、いつでも、どこでも求人検索が出来るようになり、より一層便利になりました。

さらに専任職員によるアドバイスに加え、新たに設けた相談スペースに、本学卒業生である就職支援アドバイザーを常駐させて、学生への行き届いた就職活動のアドバイスをさらに充実させました。



本学は「本当に強い大学」で、日本の私大ベスト15位

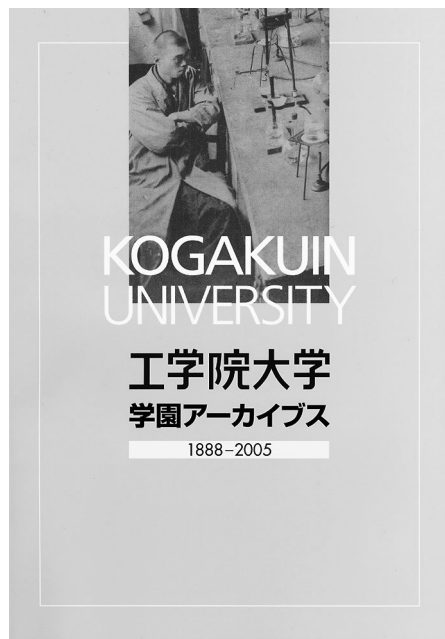
東洋経済新報社が発行している週刊東洋経済「特集：本当に強い大学」（2005年10月15日号）によると、本学は、財務力・経営革新力・研究力・教育力・就職力の総合ランキングで日本の私大15位にランクされました。5つの各指標の中では、経営革新力11位、研究力28位、教育力14位、就職力13位となりました。

また、ダイヤモンド社が発行している週刊ダイヤモンド「特集：出世できる大学」（2005年10月15日号）では、全国の国公立大学を含む2005年上場企業役員出身大学別ランキングで本学は役員数149名、管理職数199名で44位（私大では28位）にランクされ、大学出世ランキングでは75位（私大では25位）となりました。

学園アーカイブス刊行

学園は、6年後の2012年に学園創立125周年を迎えます。この度、その準備段階として、「学園アーカイブス（1888-2005）」が刊行されました。

このアーカイブスによって、先達の築いてきた学園の伝統を簡潔・ビジュアルにひもとくことができます。



2004年度一級建築士試験の本学卒業生の合格者数は全国で第5位

一級建築士の試験事務を実施している財団法人建築技術教育普及センターによると2004年度一級建築士試験の合格者のうち本学卒業生数は110名を数え、全国で5番目に合格者数が多い大学となりました。本学の建築系学科は、長い伝統と実績を誇り、卒業生の多くは建築業界で幅広く活躍しています。このたびの全国5位という合格者数は、本学が長年実践している建築学に関する教育の質の高さの証明となりました。

2004年度出身大学別一級建築士合格者数一覧

順位	大学名	合格者数
1	日本大学	370人
2	東京理科大学	147人
3	近畿大学	133人
4	芝浦工業大学	129人
5	工学院大学	110人

学習支援センターオープン

2005年度より（八王子5月、新宿10月）大学の教育や学生の学習をサポートする重要な役割を担う学習支援センターが開設されました。学習支援センターでは工科系の学問を学ぶための基礎科目である数学・物理・化学・英語を中心に、高校時に未履修の内容や習熟度の不十分なものについて「個別指導」と「基礎講座（授業形式）」の二つの方法で、学生の学習を支援しています。



工学院大学流MBAの始め？

工学院大学大学院 電気・電子工学専攻 川西英雄

1) 卒業生のみなさんにも開放

工学院大学・大学院/電気・電子工学専攻は、2005年度4月より、大学院修士課程の科目として、「マネジメント工学」を新設した。

この「マネジメント工学」は、皆さんにとって、これまでに聞いたことのない科目名であろう。事実、それは、電気・電子工学専攻独自の「造語」であり、大学院担当者の抱いた「夢」を実現したいと切望し、命名した。この新科目の開講に立ち会った一人として、開講に至った経緯などを紹介したい。また、この新しい講義は、興味を持って頂ける工学院大学の同窓の皆さんを含む社会人にも開放している。すなわち、科目履修生（単位取得可能）としてこの科目が受講出来ようにしている。

2) 新時代の人材育成プログラム

工学院大学は、「工手学校」にその基礎を置くことはよく知られている。しかし、新しい工学院大学を目指すには、この「工手」の「呪縛」から早く抜け出し、国際化が進む現代と整合の取れた人材育成プログラムの確立が、是非とも必要であると私たちは考えた。

すなわち、「技術者・工学者」としての人材育成に加え、「企業・社会・日本をマネジメントする技術・知識・知恵・能力」を備えた人材の育成が、急務ではないだろうか。「科学的・合理的」に裏打ち・組織立てられたカリキュラムの基で、様々な組織や社会を「マネジメント」するための技術・知識・知恵・能力を、工科系に基礎を置く工学院大学は、その人材育成のカリキュラムに含める必要性がある。これが、電気・電子工学専攻が、抱いた「夢」である。

それを気づいたのは、今から5、6年前の、とある委員会での雑談がきっかけであった。それまで、部長職・技術畑を歩んでいた人が、「いやー、今、講習を受けているんですよ」。つまり、技術者が、経営に関する基礎知識を学ぶ為に、長期間、繰り返し講習を受けている。そこから、MBA（Master of Business Administration：ビジネス経営）を調べ始めた。その後、専門職大学院構想として、MOT

（Management of Technology：技術経営）の単語も、新聞等で賑わい始めた頃である。

その結果、MOTは少し狭義であり、私たちの夢は、それとは離れている。むしろ、MBAに近いものであると判断した。但し、MBAで取られている手法は、「ケーススタディー」が主であった。その結果、私たちは、「工学院大学独自のカラーが出せるかも知れない」、そして、講義時間数の制約の中で、「夢」を実現するためには、「たくさんの工夫が要るぞ」、といった確信と不安とを抱いた。そのため、に、「マネジメント」のエッセンスを整理し、それらを合理的にカリキュラムに取り込み、「マネジメント工学」にまとめるためには、難問が山積みされている。

3) 若い技術者達にも！

しかし、その知識は、将来、工学院大学出身者が経営に携わるようになるときだけでなく、第一線で働いている若い技術者が、例えば、「経営陣はどんな物差しで技術成果を見ているのだろうか」、を知っていれば、自ずと若い技術者の身の処し方が変わるはずである。つまり、「備えあれば憂いなし」か。

大きな難問が立ちはだかっていた。担当頂く教授を探すことである。大学院委員会で開講が了承された時点で、長嶋秀世教授に人選の打診をした。その白羽の矢を立てたのが、現在、担当して頂いている、工学院大学・電気系学科出身の森茂樹先輩である。森先輩には、大変にお忙しいことは十分承知の上で、打診した。開口一番「私を殺すつもりですか？」だった。もう一つの難点は「工学」の名称であった。この「工学」には、電気・電子工学専攻の、「夢」の一つ、が封じ込められている。最終的に、快諾頂いた。

マネジメント工学は「マネジメント工学Ⅰ」、「マネジメント工学Ⅱ」として開講している。ようやく「船出」した段階である。幸い、今年度講義を受けた若い人は、刺激を受け、マネジメントを目指す意欲を殆どの学生が持ったと聞く。彼らが、ここで受けた技術・知識を生かし、活躍してくれる事を期待する。これも、「長い夢」である。

設立者 渡辺洪基の墓前にて考えたこと

学長補佐 横山修一

(昭和43年 電気工学科卒)

私は、3年前、三浦学長から入り口、出口（入試、就職）を担当する学長補佐として就任依頼を受けました。このときふと考えたことがあります。それは、本学の歴史と創立者の方々のことでした。我が大学は、119年の歴史（伝統）が在りますが、歴史資料館等も無く学生や教職員に歴史の重さや、誇りを持たせる実体が大変少ないと考えていました。

平成15年5月（学長補佐に就任した年）、伝統を大切にし、未来の反映に繋がる技術者の育成を念じつつ渡辺洪基（長谷寺）のお墓参りをして参りました。このときに、墓石に「夢」の題字と伊藤博文の添え字が記載されている墓碑銘がありました。墓碑銘には、工手学校のことも記載されています。初めてこのようなことを知りましたので、墓碑銘と夢の題字の拓本を取ることを今井住職にお願いしたところ快く許していただきました。拓本については、理事会のおかげで既に総務部に保管されています。感謝しております。このとき、今井住職より、渡辺玉花（洪基の長女）氏の絵画9点が保管されているので本学に寄贈したいとの意向を伺い心より感謝した次第です。絵画9点についても既に、総務部で保管しており、一部については展示されています。

私は、本学の歴史を誇りにし、大切にしようと考えておりますが、本学に在籍している学生にもこのような歴史的事実が見えるようにし、誇りを持って卒業していただけるようにしていただきたいと考えた次第です。校友の方々の熱き応援を心からお願い致します。



渡辺洪基の墓碑銘

EXPRESS エクスプレス 戦略的ITアウトソーシングで効率経営 パークウェイのトータルシステムソリューション

一般企業・法律・会計事務所等 経営に活かすIT化をご支援します。

事業内容

■システムインテグレーション事業

コンピュータを使ってオフィス業務を効率化させるインフラシステムを設計・構築します。

■システム開発事業

パッケージソフトではカバーしきれない業務のコンピュータへの置き換えに、業務内容に合わせた独自開発によるシステムを提供します。

■システムコンサルティング事業

ホームページの企画・制作等のクリエイティブ制作事業。
信頼できる一流の専門家による税務・法務等の経営相談サービス。

募集のご案内

●募集職種

ネットワークエンジニア
カスタマーエンジニア
DB開発エンジニア（業務システム）
ホームページ制作
システム営業（SI事業の営業）
一般事務（総務、経理、広報、宣伝）

●採用形態

正社員（中途・新卒）
契約社員
インターンシップ（高校生～）
アルバイト



経済産業省登録SI事業者

パークウェイ株式会社

〒167-0043 東京都杉並区上荻1-24-19 上荻井口ビル2F

Tel 03-5397-8531 Fax 03-5397-8532

✉ info@parkway.co.jp URL http://www.parkway.co.jp

第15回全国大会のご報告

(リンゴで始まりリンゴで終わった青森大会)

青森大会事務局長 外川譲二

本州最北の地、青森県弘前市で開催された第15回全国大会〔平成17年10月21日(金)〕には、300名を超える校友、ご家族、ご来賓の皆様のお出席を賜り、盛会のうちに閉幕出来ましたこと厚くお礼申し上げます。また、懇親会場の都合により募集を締め切らざるを得ず、出席できなかった皆様には紙面をお借りして深くお詫び申し上げます。

平成15年10月に本県黒石市で開催しました支部総会に本部から出席して頂いた皆様が、岩木山麓に広がる広大なリンゴ園を散策された折、県の名産品であるリンゴを大会のテーマにしては……とのご意見を頂きました。津軽の代表的な果物であるリンゴを全国の皆様にPRできる絶好の機会でもあり、テーマとして採用する事に決めました。手始めに青森県の形をモザイク化した図柄に“工学院大学”という文字を入れたシールを作り、これを収穫前のリンゴに貼って天日で焼き付け、大会独自ブランドのリンゴを作り、台風などの悪条件にも耐え、落ちないリンゴと言う縁起も手伝って大いに宣伝になるのではと考えました。林檎農家と交渉して、数本の木を借り受け、平成16年からシール貼りリンゴの実験栽培を開始しました。

収穫したリンゴは、同年10月に開催された東北6県合同支部総会に試食して頂きご好評を頂きましたが、そうこうしている内に開催年の平成17年を迎えることになりました。その2月からは月1～2回のペースで準備会議を行い、また、校友会本部の吉岡副会長、若栗理事にも一方ならぬご指導と、必要に応じて会議へのご出席を頂きました。この頃にはロゴマーク入りの封筒や住所ラベルも本部から送付して頂き、大会の案内リーフレットも全国の会員約千名の皆様に送付することが出来ました。

大会への参加申込数は5月頃までは10名にも充たず、また、突然の支部長の辞任騒動もあり、このような状況では大会を中止せざるを得ないと、真剣に考えるような大変な時期もありました。しかし、本大会をご承認頂いた前校友会長の南雲様や全国の皆様からの激励やご指導を受け、北海道から沖縄まで電話や電子メールで参加を呼びかけ続けました。不思議なもので窮すれば通じたのか6月に入ると申し込み数が嘘のように急上昇し、最終メ切的7月15日の時点で250名を超え、開催の目途が確実なものになりました。その間、特筆したいのは大会開催に協力したいと沖縄県支部から10名も揃って申し込みを頂いたことです。沖縄県支部の皆様には深く感謝申し上げます。

9月に入ると300名を超えて祝賀会場でのネプタ運行にも支障が出てきましたので、当初予定していたネプタで、お子さん達による太鼓などの囃しの会場運行が出来ず、参加会員の皆様にご披露出来なくなったことが悔まれてなりません。

大会前日（20日）全国からご参加下さる校友の皆様にお応えすべく、支部の全員が真剣に誠意を持って歓迎準備をいたしました。その午前中には一年間手塩にかけたリンゴのもぎ取り作業や仕分けをし、それを準備兼宿泊場所に運び、午後からは参加者に配布する資料の袋詰めや名札の作成など、全員が黙々と一心不乱に夜を徹しての準備作業をしている様子に、私は大会の開催にける支部の皆さんの意気込みを感じ、そのチームワークの見事さに感動さえ覚えました。

大会進行の担当者からソフトな方言で“明日は参加者を気持ちよく迎えするため皆さん背広にネクタイでビシッ決めて来てケヘ!!”と説明があったのが印象に残っています。

大会当日（21日）早朝から最後の準備を開始し、本大会のテーマは青森特産のリンゴとし、厳粛な式典会場は別と

して、祝賀会場は皆様にリラックスして頂ける様にリンゴを飾りました。飾る方法は斜板ボードに赤と黄色のリンゴを配して“青森”という文字を浮かばせると言う構想で、斜板ボードの設計などを担当した支部会員はCGで赤・黄のリンゴの個数を割り出し、祝賀会場へ搬入し、斜板ボードに飾り付けました。リハーサルなしの本番ですから、本当に文字が浮かび“青森”と判読できるのかどうか不安はありましたが、予想以上の出来ばえに一同歓声をあげたものでした。その後は、式典会場、祝賀会場各々の担当部署に分かれ、受付開始時刻には全ての準備を終えることが出来ました。

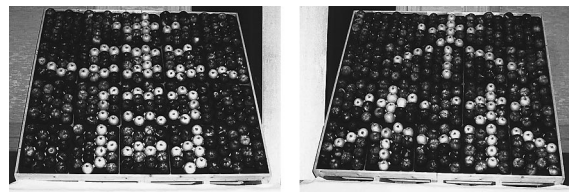
青森県人はネプタと同じように一旦火が着いたら止まらない熱さがあり、各自責任を持っての行動でそれなりに会員の皆さんは達成感があったのではないかと思います。

大会式典と祝賀会の当日の様子は参加者の皆さんご承知のとおりで、紙面の関係で省略させていただきますが、祝賀会の最後に三味線奏者の山上氏に乘せられ、私たち県会員全員揃って地元の民謡を合唱したのは、全く予定にない偶発的なことでした。“リンゴ節”と“南部俵づみ唄”を合唱したのは、青森支部会員の最高のパフォーマンスであったと自負しております。

大会終了後の残務整理として、出席が出来ずご寄付を戴いた方々には、記念誌・記念品など一式を、また過分のご寄付など頂戴した方々などには飾りに利用したリンゴをお送りさせていただきました。大会限定となったシールを貼ったリンゴも含めて、全国の皆様に味わって頂けたことは、私たちにとっても大変光栄な事と喜んでおります。

最後に地方新聞に掲載された文章に「方言は感性のままに発展した宇宙的言葉」というのがあり、けだし名言と思っていますので、校友会の皆様、そして大会参加者の皆様“良かったらまた青森に来てケヘ!!”

皆さん本当にご支援ありがとうございました。



A



B



C

写真説明（赤いリンゴ名“ジョナゴールド”、黄色は“王林”）
A：見事に文字が浮き出たリンゴ“青森”
B：ロゴマーク付きリンゴ（文字出現確率：約80%）
C：シール貼り前のジョナリンゴの袋はぎ（2004.9.18：筆者）

追伸： 大会では、不備など多々あったと存じますので、お気付きの点ございましたら、下記宛にご一報下さいませ。

〒036-8141 弘前市松原東1-14-19 外川譲二 以上

支部だより

青森県支部

嶋脇芳勝 青森県支部・支部長

平成17年度工学院大学校友会青森県支部総会を東青地区担当（1泊2日）で下記のように開催しました。

日時 平成17年11月26日(土)15:00～～27日

場所 青森浅虫温泉 ホテル秋田屋
総会次第 司会進行 北川

支部長挨拶
議長選出 恒例により支部長
議事

- ①事業報告 北川
- ②監査報告 伊藤
- ③収支報告 兼子
- ④役員改選
- ⑤その他

休憩の後、第15回校友会全国大会の記録報告会と記念写真撮影、懇親会を行った。

主な内容

- ①事業報告 全国大会開催のための準備委員会を平成15年6月1日に発足させる。以後大会当日まで21回の準備委員会を開催（詳細は別報告）平成17年8月28日の臨時総会で支部長に嶋脇芳勝を選出

- ④役員改選
顧問 外川譲二（津軽）
支部長 嶋脇芳勝（三八）
副支部長 兼子純一（津軽）
斎藤秀人（下北）
千葉憲夫（東青）
庶務幹事 澤口正光（津軽）
大南公一（三八）
会計幹事 伊藤 隆（上十三）
北川良治（津軽）
幹事 加賀沢文雄（上十三）
工藤康記（津軽）
外に地区幹事21名を選出した

⑤その他

平成18年度総会は上十三地区で担当する。尚、懇親会では全国大会への取り組みと反省及び会員相互の親睦を深めた。



沖縄県支部

芳田眞喜人 沖縄県支部・支部長

全国大会沖縄大会のご挨拶
「めんそーれ 沖縄へ」

沖縄県支部は1965年8月発足、昨年8月で満40歳を迎えました。

我が会員は、県内の建築業界、電力業界などで活躍されている方々が多く、沖縄県の街づくりに貢献しています。沖縄県支部発足当時は、祖国復帰されておらず米国民政府の統治下で、その頃沖縄から東京を見ると精神的な感覚としては遠い遠い国に感じられました。

そんな中沖縄から東京へ行き、大学で学び、故郷へ帰って来るという事は大変な事でした。帰って来た我々は、同じ大学出身の仲間が集い沖縄校友会を立ち上げ、人脈を広め、情報を交換し合い、沖縄の発展に貢献しようと燃えていました。

あれから40年、地道に会員を増やしながら活動を続けて参りました。活動内容の主な行事は、
①年3回実施のゴルフコンペ

②数年に1度のハイキング

③年1回の定期総会

等などを実施しています。

このような状況の中、発足40年の節目に工学院大学校友会全国大会を、この地、沖縄で平成20年の開催を決めて頂いた事に、本部の皆様はじめ、会員各位に心から感謝申し上げます。

沖縄は青い海、青い空に象徴される南国の島で琉球王朝によって育まれた独特の芸能文化があり、世界遺産に登録された数々の史跡や建築等があります。同じ学舎で学んだ皆様と沖縄の歴史を学びながら沖縄の観光地を訪れるのも各人を成長させる良い機会だと思います。

大会は平成20年10月10日を予定しています。沖縄は、平成17年での人口が139万人、観光客が547万人と爆発的な人気スポットとなっております。沖縄での全国大会参加に向け、これから計画を立て多くの方々を訪れる事を願っています。

私共沖縄の会員は、皆様を暖かく迎えられる様、着々と準備を進めてまいります。「めんそーれ 沖縄へ」

岩手県支部

工藤一博 岩手県支部・支部長

工学院大学を日本一の大学へ

弘前の全国大会で、工学院大学を日本一の大学にしようと宣言しました。決して根拠が無いわけではありません。今までの私の経験から、同じ内容の〈おもう〉でも思う。 念う。 では意志の強さが違います。石に文字を書くような強い気持ち 念う。 の気持ちがあれば日本一になります。

岩手県で概ね優秀な生徒は、岩手大学に入学します。そのため大学を卒業するまで都会を知りません。卒業後は、東京に出てきて様々な意味でカルチャーショックを受けます。自分が成績優秀だと思っている人は、もっと優秀な人がいることを知り挫折します。しかし、私のようにそれほど優秀でなくても、大学生活を大都会で生きていると、卒業後は地方から出てきた人に比べカルチャーショックがありません。大学の4年間は地方の大学に比べると、東京での生活はお金も掛かり大変ですが、知らず知らずに東京のカルチャーを吸収している気がします。このことを大学の関係者や父兄は気がついていないような気がします。

昨年4月、東北大学大学院博士課程に入学しました。同級生に話をすると誰も信じません。実は北海道大学からも入学しないかの誘いがありました。その後工学院大学にも社会人ドクターの制度があることを知りましたが、入学の誘いはありませんでした。特許の出願があれば修士卒業と同等と見られ博士受験が可能になりました。私は、雪をテーマに受験しました。雪を研究している人が少ないので、競争相手がいないことが入学できた全てです。

そのようなことから工学院大学も誰とも競争しない分野、かつ将来有望な産業を学ばせることで、日本一の大学になれると思います。それには大学の卒業生をもう一度見直しして、どちらかと言うと隙間にいるような人にスポットライトを浴びせ、客員教授くらいにして利用することが日本一の大学になれる近道だと思います。

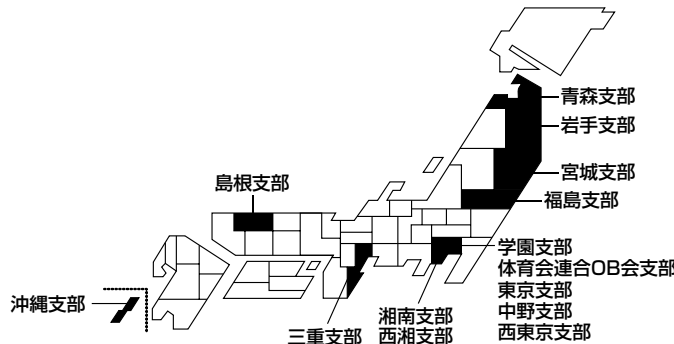
小田嶋幸蔵

岩手県支部・事務局長

岩手県支部は、平成17年度現在の会員数が185名で、毎年支部総会及び交流会を開催し、会員相互の親睦を深めています。特に会員の異業種の情報交換に力を入れています。交流会は、本学から様々な専門分野の講師を招くなど、講演会を行いながら、泊りがけで飲み明かし、翌日は釣り大会を企画するなど盛り上がっています。

北東北に位置する岩手県は大変広い県であり、四国に匹敵するほどの広さです。従いまして、会員も岩手県内の各地に散らばって活躍しています。そこで10年前に支部活動の活発化を図るために、支部規約の改正を行い、岩手県内に4地区を設置いたしました。地区のまとめ役は、その地区の在住者に、県支部の副支部長としてお願いし、総会などを開催するときは、出席を働きかけて頂いています。さらに、総会及び交流会の開催場所を4地区持ち回りとしています。最近では、平成16年10月に岩手県花巻市志戸平温泉ホテルで東北6県合同支部総会を開催（約70名参加）し、交流拡大にも力を入れました。悩みは、若い会員の方の参加が少ないことです。

平成16年度の岩手県支部体制
「支部長」工藤一博、「副支部長 盛岡地区（県北）」宮秀一、「副支部長 県南地区」畠山忠弘、「副支部長 沿岸北地区」佐藤忠暉、「副支部長 沿岸南地区」石村佑蔵、「幹事 盛岡地区（県北）」佐川秀雄、「幹事 県南地区」黒澤克郎、「幹事 沿岸北地区」伊藤敏、「幹事 沿岸南地区」松田信男、「事務局長」小田嶋幸蔵、



「事務局員」後藤嘉平、「会計監査」一方井将則、「会計監査」大鷹裕、「顧問」川村 仁

宮城県支部

加藤 勇 宮城県支部・支部長

「新たな参加者を増やす」

校友会支部活動では、総会や行事にいかに多くの会員に、参加していただくが大きな課題であり、多くの支部でも悩みの種と伺っています。

ご多分に漏れず、宮城県支部もその部類ですが、隣接支部との交流ということで、ここ2～3年岩手県支部との、ゴルフ等の交流をはかっていることについては以前にも報告しました。

17年度全国大会では、支部総会を全国大会にドッキングしたこともあったか、初めての方々にも出席していただき、その盛り上がりで、その後ゴルフにも参加して頂いたことは、一つの成果と受け止めています。18年度は同じ隣接の山形、福島支部とも交流をはかりたいと考えています。

多くの意見も期待出来ることから、宮城県支部の中でも総会開催地を持ち回りにして、仙台以外でも開催し、いつもの顔ぶれに出来るだけ多くの初参加者を呼び込むことにより、更に交流の輪を広げていくことにしています。

一方、後援会との関係については、東北支部として念願叶って17年度OB会が結成されたこともあって、校友会として今までの交流を活かし、アプローチしながら、新しい交流をはかっていきたいです。

校友会活動の活発化に特効薬のな

いことは、過去の歴史が示している
と推量されますが、17年度総会案内
を送った結果から、新たな糸口を見
出したこともあり、常連参加会員の
叡智を結集しながら、「新たな参加
者を増やす」ことに地道に見えよう
とも、果敢に取り組んでいるところ
です。

福島県支部

高村 勘 福島県支部・支部長

平成17年度工学院大学校友会福島
県支部総会は、全国大会会場の弘前
文化センターにおいて、10月21日、
会員9名と家族2名が参加して開催
いたしました。

総会では平成17年度会務報告、会
計報告、平成18年度役員改選などを
審議し、終了しました。その後、全
国大会の式典及び祝賀パーティにも
参加し、他県の校友の皆様方と親睦
を深めることができました。

第2日目のオブショナルツアー
は、個人の選択により下北半島等を
観光いたしました。参加された方の中
には初めての方もおり、楽しく有意
義な観光ができました。校友会全
国大会及びオブショナルツアーを企
画していただいた青森県支部の皆様
方に心より感謝を申し上げます。

ところで、福島県内は広大な区域
のため5方部に分けて活動しており
ます。県北方部は、1月21日、福島
市内の和風料亭「だてばせお」にお
いて新年会を開催いたしました。懇
親会においては全国大会等の反省を
話し合いながら年頭の決意を新た
に、今年度の活動内容を再確認して
閉会いたしました。



県北方部新年会

学園支部

長島珍男 学園支部・支部長

本支部は2004年10月に校友会理事
会で設立が承認され発足いたしまし
た。

現在、本学園に在職されている教
職員は、約400名となりますが、そ
の30%弱（106名）の方が本学園出
身者であり、本学園支部の会員とな
っております。

○本大学は今年の4月から情報学部
とグローバルエンジニアリング学
部の2学部が新設され従来の工学
部と併せて3学部となりますので、
その設立準備

○八王子校地内化学実験棟の新設と
4号館の改装

○18歳人口激減の嵐の中、応募者確
保のため大学入試日程を大幅増加

○附属高校の新校舎建設

○専門学校の平成18年度学生募集停
止

等、本学園の教職員は多忙を極めて
おります。本学園支部はこのような
状態の中に巻き込まれ支部活動は満
足なものではありません。しかし、
今後の動向を温かく見守ってもらい
たいと思っております。

体育会連合OB会支部

田中耐規 体育会連合OB会支部・支部長

体育会連合OB会支部は、平成17
年6月4日に、第16回定期総会を新
宿校舎にて開催し、大橋理事長、三
浦学長、中山学生部長、長嶋校友会
会長、東京支部浅見様、埼玉中央支
部黒澤様、小倉先生、山下先生、校
友会本部の皆様、体育会OB（12部
42名）現役学生54名、新入生36名等、
150名の皆様方に出席を頂きました。
本当に有難うございました。

第1部総会は、出席理事の皆様に
慎重な審議を頂き承認されました。

第2部の記念講演は、中山学生部
長にお願いし「私とサッカー」の演
題で、先生のサッカーに対する情熱
と学生時代の苦労された経験、戦後
間もない大変な時代で道具も今と比
べ物にならず合宿所も兵舎の跡だっ
たり、それでも一生懸命打込んでい
た時の事など興味深く有意義な講演
を頂きました。

第3部の懇親会では、大橋理事長
をはじめほとんどのご来賓の皆様に
も参加を頂き新入部員の紹介、優秀
な成績を上げたテコンドー部の表彰
等が行われ、大学理事の皆様、学長、
先生、OB、学生の幅広い交流と懇
親がもたれたと思っています。

終わりに、応援団道部OBさん
の志気のもと工学院大学園歌を全
員で合唱し、体育会OBの学生時代
に戻った楽しい一時を終了させて頂
きました。

連合OB会の理事会は、隔月第2
金曜日PM7:00より新宿校舎で行
われております。参加して頂くOB
の方々のご協力と各クラブOB会の

ご支援で年々盛会になって来ている
と思われます。又大学の事業活動に
も参加させていただき、各クラブの
指導者に対するリーダースキャン
プに出席、ホームカミングデーへの
参加等の活動を続けております。

10月に青森で開催されました全
国大会にも10数名の皆様に参加して
頂きました。新しい試みとして卒業
生に校友会に対して理解と参加意識
をもっていただく為に4年生体育
会役員に校友会新年会への出席を
依頼し、今後校友会ならびに母校の
発展に寄与して行きたいと思ってい
ます。

連合OB会は体育会OBの方々のご
支援とご協力により存続し活動を
致しております。

今後もOBの皆様にご支援とご協
力をお願い申し上げます。

体育会連合OB会のホームページ
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~rengo-ob/>
が有りますので是非クリックし
てみて下さい。

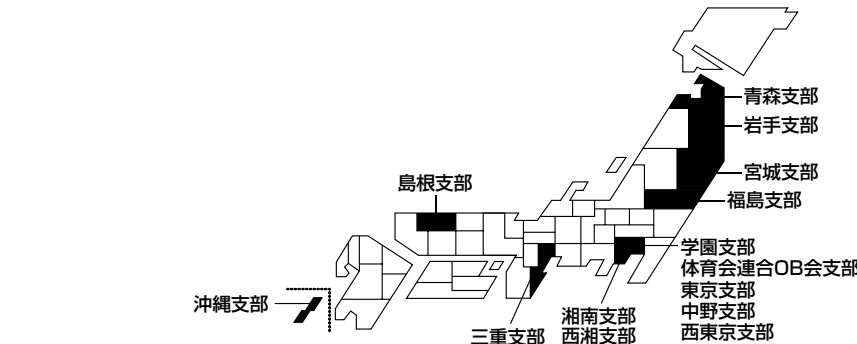


東京支部

若林勝司 東京支部・支部長

全国の校友会諸兄諸姉各位ご壮健
でご活躍のことと存じます。

振り返れば、休眠状態にあった都
内、都下の各支部の衰退を憂い、当
時の校友会組織部の発声で、学園の



膝元の支部として強化、再生が図ら
れました。

初代支部長ハナ肇氏から、坂田佳
昭氏、千代田節雄氏と引き継がれ、
この10月で、東京支部は設立15周年
目を迎えることができました。

設立当初からの合言葉は“明るく
楽しい活動を、広げよう校友の輪”
であります。それらを実践すべく、
6つのサークル活動を絶やすことな
く続けてまいりました。ゴルフサー
クル（年2回）、囲碁将棋サークル
（毎月）、俳句サークル（毎月）、
写真サークル（毎月）、釣りサークル
（年1回）、社会見学サークル（年2
回）、がそれぞれ活動を続けており
ます。その一端をご紹介します。



月例会・新宿28階



俳好会・展示風景（支部総会時）

☆お問い合わせは、本部事務局まで、
どうぞ、お気軽にご参加ください。

中野支部

南迫哲也 中野支部・支部長

学園の卒業生が母校の発展を願う
ことは重要である。したがって卒業

生の学園への関与の議会は現在各同
窓会からの選出者だけに限られてい
るのは片手落ちであり、各支部から
の選出も何らかの関与の機会が与え
られるべきであろう。なぜなら、私
がこれまで過去半世紀間、瞥見する
ところ、各同窓会内の閉鎖的意見集
約が争いごとの巢になっているよう
に見受けられるからである。考え方
の近い、同窓会という縦糸だけでは
なく、いろいろな考え方の混在する
各支部という横糸こそ全体を織り成
す布として欠かすことのできない機
能を発揮する重要な役割を持っている
と思はれるからである。それ以外
に、支部の存在意義は何もないので
ある。支部内の意見交流こそがむしろ
大切なのである。

中野支部からの報告：2006年1月
15日（日）18時～29時（於；中野
“つな八”会費制）理事会を開催、
議題：『今後の支部運営』、どこの
支部を訪れてもそこで行なわれてい
る議事なり講演内容がその支部構成
員の真に必要な内容であるとはい
い、単なる時間繋ぎであり、つまり
どうしても良い内容であれば、誰も
次からは来ないと言うのが実情であ
ろう、今多くの支部総会が面してい
る問題は、多かれ少なかれこれと同
じ問題を含んでいる。支部の存在価
値がなければ、存続が不可能な状態
なのを個人的な犠牲に於て継続させ
る必要はない。有意義な目的もない
ままにやることの無駄さ加減にホト
ホト嫌気がさしてくるというのが正
直なところであろう。いま中野地域
会は他の隣接する支部との合併や、
会員連絡をmailだけにする、等いろ
いろなことを検討しているが、問題
解決は先送りである。「無意義なこ

とは止めよう」というのが今回の理事会の結論であった。近々中野支部はなくなることになるかもしれないと危惧している。

西東京支部

青木俊之 西東京支部・支部長

八王子キャンパスの地元である西東京支部は八王子を中心に支部活動をつづけています。17年度の支部総会は校友会本部の中島・並木・朝比奈各理事、近隣支部より7名の幹部のご出席をいただき八王子市のクリエイトホールで開催いたしました。

今年度は役員改選期に当たり総会では青木支部長以下16名の役員が承認されました。17年度については総会にて承認された事業計画、予算で支部活動を行いました。支部会員および、近隣支部の皆様のご協力で各事業が滞りなく終わりましたことを、心より御礼申し上げます。尚、18年度の支部定例総会は6月3日クリエイトホールで開催の予定です。

17年度の事業は下記のように実施した。

- 10月21日開催された校友会第15回全国大会に支部長以下支部員が多数参加。
- 10月21日開催された全国支部長会に青木支部長が参加。
- 近隣支部総会に支部長・副支部長が出席した。
- 8月20、21日開催された第12回わくわくサイエンス祭に参加。
- 9月14日サントリー武蔵野工場見学会を18名の参加者を得て実施した。
- 10月9日八王子市民会館にて開催された大学一部文化会吹奏楽部

第26回定期演奏会に毎年恒例のフラワースタンドを贈呈し素敵な演奏を堪能した。

7. 平成18年1月14日地元の銘酒「高尾山」「日の出山」の蔵元、中島酒造場の見学会を参加者27名で実施した。見学後、八王子駅近くで新年会を行い、にぎやかに歓談後平成18年度の学園の繁栄と各支部の発展を祈念して散会した。



中島酒造場見学

湘南支部

笠原又一 湘南支部・支部長

湘南支部は横須賀から海岸沿いに葉山、鎌倉を経由して江ノ島のある藤沢から平塚に到る湘南海岸のきらびやかな風景と古都の歴史、新鮮な息吹と静寂な佇まいの対照的な雰囲気同居する地域にあります。

近年の活動としては、近隣の支部と合同で行う親睦ゴルフ会の開催、湘南地域の史跡散策と旨い酒と海の魚の旨い店を見つけて食事をする会などを催しています。これは評判がよくてアルコールならぬアンコールにもお答えすることになりました。

湘南らしい知的な校友会活動もしなければということで、新規建設の江ノ島灯台の建設現場の所長の灯台構造の説明と見学会を会員の計らいで実施したり、知的財産研究会を当湘

南支部の丹羽宏之相談役のご指導の下に実施しております。なかなか世間に出願するような発明には至りませんが、夫々のキャリアを生かして自分の課題を紹介しあって和気藹々の意見交換をして楽しんでいます。

この間、丹羽相談役が勲五等双光旭日賞を授章されたり、神田太樹幹事が工学博士の学位を取得したりでおめでたいことも沢山ありました。

さらには湘南地区の私立14大学の校友会の集まりである、湘南ユニバーシティクラブ（SUC）で、平成17年に工学院大学校友会 湘南支部が幹事校となり、各大学175名の会員を集めて第9回SUCの総会と懇親会を成功裏に開催することができ、工学院大学の名声をこの湘南の地域に広げることには多少は貢献できたと思います。

今後、社会環境も大きく変化し母校もグローバルエンジニアを育成するプログラムを展開していますから、我々自身もグローバルな視点で校友会活動を進めていく必要があると思います。新しく登場した長嶋会長のご指導のもとに、湘南支部も柔軟で新鮮な体質に切り替えて新しい企画を考え、母校の発展に寄与したいと願っております。

西湘支部

重田光廣 西湘支部・支部長

西湘支部（経過と今年のとりくみ）

支部の誕生は比較的新しく新宿高層ビル校舎が完成した年だったと記憶しています。

現在専門学校にお勤めの住野先生の熱心な呼び掛けに当日参加者一同心を打たれ当支部の発足が決まりま

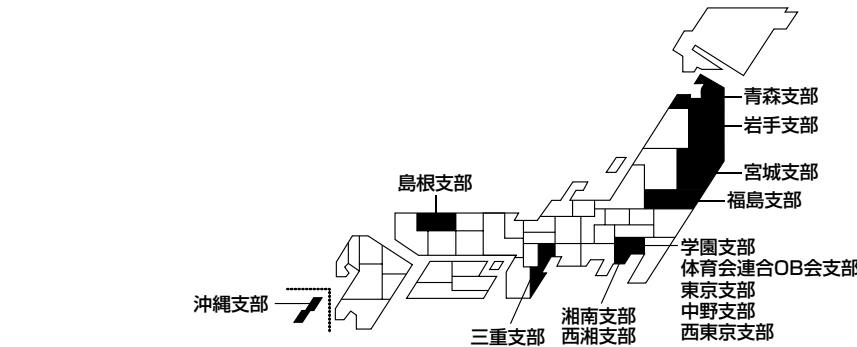
した。初代支部長として川上俊夫氏（現副支部長）が選任され会員相互の親睦と交流を図ることを重点目標としてスタートしました。このようにスタート時点では他の先輩支部とは質的にもハンディーがありました。が歴代支部長（小磯章治氏、倉賀野孝行氏（現副支部長））の努力により資料として前年度会計報告、活動報告、次年度予算、次年度活動計画等基礎的な資料が揃うようになり支部総会が定期的に開催可能な状態になりました。

私が支部長をお引き受けするようになってからは年間行事の幾つかは定例行事と定着し担当の副支部長が責任を持って担当して貰える状態になりました（例、海つり大会、地場産業見学会、親睦ゴルフコンペ等）。

また、校友会主催の全国大会への夫婦参加も島根大会から、福岡大会、青森大会と3回連続参加が出来ました。主催支部の皆さんを始め全国支部の方々との交流も積極的に出来るようになりました。関係者の皆さんに心から感謝しています。

現在支部活動自体はそれなりに着実に発展してきていますが各イベントへの参加者は減少しています。

今年は地域校友会活動をより身近に感じて戴ける機会を提供するために会員の【趣味や特技】を紹介する【連載コーナー】をホームページに設け一人でも多くの会員の参加を呼びかけて行きたいと思います。昨年はトライアルとしてバードウォッチングを真鶴半島で実施しました。講師は会計で副部長の中島鈴之氏、参加者からはコース内の新鮮な空気と鳥の鳴き声、姿に感動した等好評を得ました。



三重県支部

坂口周平 三重県支部長

長らく休眠状態であった三重県支部の再出発会合を平成18年2月12日、津市のホテルグリーンパーク津において開催しました。

出席者は16名でしたが、新支部長に坂口周平（建築学科昭和44年卒）を選任し、今後の活動について話し合いました。

なお、組織部から建築学科の初田亨教授が来られ、学園の近況報告と「歴史的建築物の保存とまちづくり」と題した講演をしていただきました。

次回会合は平成19年2月17日(土)の予定として散会しました。



島根県支部

平野久雄 島根県支部・支部長

6年前に開催した全国大会（島根大会）によって一気に高まった支部会員の校友会に対する関心も歳月と共に薄らぎ、近年は年一回の総会を開催することが精一杯の状況です。

また、他支部に遅れを取るまいと開設したホームページもメンテナンスの難しさを思い知らされて鳴かず飛ばずの状態です。その上、昨年2月に、支部の運営などに適切なアド

バイスを頂いていた副支部長の小村優氏（電気S.38卒）が急逝され支部の意気が一層消沈してしまいました。今年は、この様に停滞した状況を打破して再び支部を活性化させるために、近県支部との交流会や学園から講師を招いての講演会、後援会との交流などを積極的に実施したいと考えています。

そんな支部活動の停滞とは裏腹に、昨年10月には支部長の特権（？）からか愚妻（愛妻？）の他に支部会員の奥方を二人も同伴で青森大会に参加して沢山の方々との交流しながら大会を楽しみました。その上、平泉、八甲田山、十和田湖、奥入瀬、浅虫温泉の観光まで出来てすっかりご機嫌な体験をさせて頂きました。

最近、校友会のあり方や意義、またその活動や体制などについていろいろと議論されておりますが、「校友会の原点は親睦」ではないでしょうか。同じ学校を卒業したことだけの関係で繋がっている校友会員はまず第一に親睦を深めることが必要です。

会員相互の信頼と親睦が深まれば社会に対する貢献は自ずと始まるでしょう。

6年前の島根大会で、参加者全員が一丸となって団結を誓いあったあの「バンザーイ！」の感動をもう一度思い出してください。そして、また遊びに来てください。



究極的コンパクトな折り畳み自転車の開発ストーリー

塩田 清 工学院大学 機械工学科

1. 開発への思い、方針

折り畳み手順数は市販製品以上に増やさない、車輪サイズは実用域以下の小径にはしない、この条件下でコンパクトなサイズの限界はどのようなだろうか、このことにチャレンジした研究開発の概要が以下で述べる内容である。

- ①何んのために折り畳むのだ！
小さくすることだ！
小さくなっていない、小さくできないもの、これは折り畳み車とは言えない！
——究極な世界に足をふみ入れ、あくなき小ささへの探求。開発初期はタイヤの2つ折りすらも——
- ②奇抜な機構とか、折り畳み・組み上げに関して思案してしまう様なメカニズムとか、女性達が違和感を受ける様な仕組とか、ましてや工具などは一切使用しない方式とする。
- ③自転車は機構的視点から見ると必ずしも左右対称ではないし、そうでなくとも良い。駆動系はその代表例である。この事実をコンパクト化には積極的に当てはめ、片持ち前輪フォーク、各部のパイプフレーム寸法・形状などに適用。
- ④幾何学的分析を徹底的に行う。この具体的手法として有効なCADの活用。
- ⑤スタンドや空気入れ等のアクセサリ的分野の設計まで踏み込み、使い勝手をサポート。

二輪車にはエンジンを原動力としているいわゆるバイク(小径ならスクータ)そしてごく身近な自転車がある。これらは人体サイズに直結した車輪、ハンドル等の配置であり、諸元的に見れば、限定・確定的なものである。折り畳み車であってもこの大前提は外すことはできないのは当然で、設計的工夫でコンパクト化を狙って行くことになる。自転車は200年程前自分の足で地面を蹴って走行するという原型、100年程前に今日的ペダル、チェーンでの駆動方式になり今日に到っている。自動車や航空機も同様に約100年の歴史なので、歴史的大差はない。この見方を少し強調するならば、まだまだ開発すべき余地が残されていると見ることもあながち不自然なことではない。

2. 研究開発経緯

2-1 エンジンの環境対策・二輪車の設計

機械工学科内燃機関研究室に席を置く筆者は何んらかの関係で排気ガスや騒音振動等の環境問題と研究面、教育面でかかわって来た。一昔前なら想像すらできないことであったが、現今では環境外気よりクリーンな排気ガスを排出するエンジンも現実となった。静粛なエンジン、乗りもの、

省エネの問題なども同様長足の進歩をとげた。

10年程前、モータアシスト自転車のはしりの頃、二輪バイクは環境対策面は非常に後手状態であり、一方同じ二輪でも人力に駆動を頼るとはいえ自転車ならエンジン自体が無く究極な無公害車であり、二輪車が善悪二面を合せもって、この二輪に関する解答は何んであるのか思いめぐらしていた。この1つの解答としてエンジン着脱方式というアイデアが浮んだ。文字通り状況に合せて2様式が採り入れられるシステムのことである。

エンジン設置箇所として車輪内のスポーク部分の断面形状としてはソロバン玉的部分が候補に挙ったり消えたりしていた。「狭い空間を出来る丈有効に活用する」このことと自転車の大きくかさばるのを小さくコンパクトにする——折り畳む——ことの概念結合は何んの説明もいらぬめぐり合せであり、このことがエンジン研究室から二輪折り畳み自転車誕生ストーリーとなった。研究室の陣容などを考慮してCADの活用にしたよった設計面だけの開発に限定し、もの作りは一切省く方針でスタートした。バイクや自転車には素人達の無鉄砲な着手であった。野球の巨人軍の元監督川上哲治のいう『真剣だと知恵が出る。中途半端だとグチが出る。いいかげんだと言い訳ばかり』の格言を壁に当ると念仏力とした。

2-2 世界最少折り畳みサイズ

世間では折り畳みでコンパクトにすることにに関して認識の不足していることや誤解していることがあるので、このことをまず正しておく。図1は市販内外143車種の車輪径を横軸にした折り畳みサイズを調査した結果のグラフであるが、玩具的な小径車種であってもコンパクトへの道すじを示していないということである。つまり車輪径を小さく、折り畳みステップ数を増しさえすればあたかもコンパクトへのルートを手にできるかのごとき理解は適切ではない、ということである。

自転車とはいえ一本の線の長さ、1°の角度にも徹底的に分析的配慮して図面を引き、ロッカー収納サイズを完成できた。このことは未到の世界と自負している。

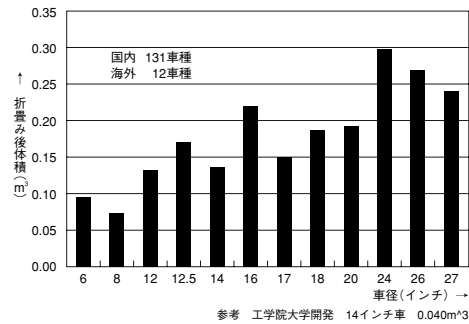


図1 車輪径毎の折り畳み後体積 (平均)

2-3 特許のこと

2004年に取得できた特許を含め4件の特許がらみの技術に裏打された開発が結実しコンパクトな自転車となった。当然ながら最初の特許が基本中の基本であり、以降へのつながりとなった。筆者の何んらかの人的つながりから申請案文作りは全て異なる人々の手を煩わした。適格にスピーディに練り上げる人、発案者を越える領域まで目配りして下さった人達などこれらの人々との出会いは筆者には心に残る有意義な機会となった。

3. 成果・報道

試作車であることで物足りない点は多々あるが、それ以前の研究室での内部的試車は除いて、以下の2車種を完成させ公表した。

- i 14インチ車 333×473.7×239mm 9.4kg (図2) (2003.6完成)
- ii 16インチ車 350×518×239mm 12.5kg (2005.11完成)

14インチ車輪の試作車は折り畳めば、コインロッカー(小型サイズ)に楽々収納可能な設計にしたことで、そのユニークさから新聞、TV、雑誌社等から注目を集め、多数の関心が寄せられた。サイズで従来サイズの約1/3にまとめあげた。主たる例をあげると、日刊工業、日本工業、日経トレンディ、朝日、読売、中日、NHK-TV総合、テレビ東京、小学2年生などである。

後者は16インチ径であっても、ギリギリ小型コインロッカーに収納ができ、コンパクトさの特色は引き継いでいる。この開発に時間を要したのは、1ヶ年以上に渡って先入観で無理なことと思い込んで放置していたことによる。他の理由は16インチ車は試作面はともかく、設計面では2003年ごろも進めていたが、これらの図面の根底からの引き直しが必要であった為である。そして重量面が少々悪化したのが軽金属材をこの16インチ車では意識的に鋼材に置き換え、強度面の重視に切り替えたことによる。こちらの新聞報道等は5件程であり(図3)、我々の苦労度合の比例とはな



図3 新聞報道例

とで、世界最少を狙った着想の様子は図2から理解して戴けるものと思う。しかし小型であっても軽量でなければ十分な評価は下されることが、折り畳み車は携帯という場面と関係が強いことからいえよう。この重量軽減面は今日迄ほとんど手をつけていない分野であり、小さくてしかも軽いということの達成なくしては真の意味で開発はまだ道中ばであると認識している。

4. 開発折り畳み車の用途や今後の動向

コンパクトさに特徴があるとすればその活用の中の広がりや深まりはどのようなだろうか? 筆者はこの正解を持ち合せている訳ではない。これはいふなれば社会工学的分野のことであり、工学的切り口や感覚だけでは解は得られないと理解しているからである。社会とか環境の今後の推移を想定することは簡単なことではない。乗りものである限り便利さ、有効性、手軽さなど第1の条件であろうが、愉しさ、趣味性、遊び心、心地良さ、ファッション性などの意味付けが増してくる可能性が高いかもしれない。しかしこれらは少々漠然とした点もあるので、描き得る絞り込みを試みたい。

- ①環境対策(温暖化防止対策)
- ②健康維持・増進
- ③散策・観光(鎌倉・萩……等の小都市)
- ④災害対策(大地震向備蓄)
- ⑤制約的レジャー、レクリエーションゾーン(博覧会場、大規模公園、豪華観光客船、電車站・登山の登山口など)

乗りものなるカテゴリーの区分から陸・海・空・宇宙(例月面)なる空間はポータブル性が満たされるならば(図4)特段の区分けは無意味とえてくる。今日の見方、つまり折り畳み二輪車(自転車)はマンションの玄関先収納のケースや都市域での街のり用途といった見方は変化することになってくるのかもしれない。

図4 工学院大学試作車と市販車の体積比較

み二輪車(自転車)はマンションの玄関先収納のケースや都市域での街のり用途といった見方は変化することになってくるのかもしれない。

5. 開発にたずさわった人達

2004年に入った頃から開発研究の様子が徐々に社会に知られる様になって来たが、当然それ以前に地道な水面下の研究活動は活発で、このベースがなければ、今日の成果には結びつくはずがない。長期に渡り学内外の多数の方々からの協力援助を受けた、深く感謝致します。最後に学内当研究室でのこの開発活動で代表的な卒論生の氏名を記し謝意を表します。竹内庸之(98年度)、菊地嘉一(99)、斉藤祐馬(2000)、永井隆二(01)、大谷正樹(02)、山口慎二(03)、三橋弘智(04)、秋山翔太(05)の各氏。2006.2記

塩田清先生は2006.3定年退職

研究雑感

—学生と共に過ごした5年間を振り返って—

小野幸子 応用化学科



2001年4月（平成13年度）に私は応用化学科に迎えられました。与えられた新宿キャンパスの20階の居室から感慨を持って代々木公園・神宮の森の緑を眺めおろした5年前の日を懐かしく思い出します。今では本学南側にビルが建ち、朝夕に楽しめた季節ごとに変わる森の木々の色も眺望も残念ながら失われました。あまつさえ、応用化学科が長い間拠点としてきた20階からの退去を示唆されるという状況は寂寞の至りです。新宿センタービルに向かう当研究室に来訪者を迎える時、高層ビルでISOに従って研究活動を進めることを誇らしく語り、21階の測定室にある走査型電子顕微鏡を、日本で最も高いところに設置されているSEMとして紹介してきました。

私は様々な国立・公立・私立の大学に在籍した経験から、工学院大学の素晴らしさ・優れた面がよく分かります。大学院生を国際会議などに海外派遣する制度があること、個人研究費が手当てされること、応募による研究費が配分されること、学会発表出張費が保証されていること等々、数えればきりがありません。いずれも、がんばりが報われるという、教員や学生にとって研究への活力の源になるものです。それ故、教員の活力が学生に伝達し、工学院大学の学生は大きく伸びるのです。しかし、他大学の教員に誇らしく語ったこれらの事項も、昨今の財政引締めにより存続が危ぶまれる方向にあると聞きます。失うものと得るものが比較できない次元なのが残念です。

さて、研究雑感として、まず語らねばならないのは学生達についてです。研究室の最大の財産は何と言っても学生です。他学科、他研究室も同様と思いますが、当研究室の基本方針は、学生がここで何らかの力を身に付けて巣立って行くことで、そのためには学部3年間の生活とは異なる、社会との接点としての教育環境を準備することになります。その何かを化学の研究を通して学び身に付けて欲しいし、同時にこんなに面白い研究に夢中になり、時間を忘れ奮闘する経験を持って欲しいと願っています。そ

のことを真に考えると、学生に対して高い理想を掲げ、時には厳しく接する場合があります。



初々しい一期生の面々

科学者にとって研究は、妥協のない、これでよいということのない世界ですから、本当に研究を進展させ、喜びを与えるために、たとえ卒研生であっても実験結果に対しては厳しい目で対することになります。また、大勢の学生が過ごすためにはそれに応じたルールを守ることが必要です。恐らく彼らの人生には今まで経験がなかった状況と思います。始めは遅刻、欠席を重ねていた学生達が『自主性や学ぶ意欲の重要さと、それによる自分の成長を感じることができた』『大学生生活で最も内容が濃く、一瞬で時が過ぎた』『院生のパソコンスキル、語学力、コーチング力が素晴らしく、毎日、自分自身が成長しているのがわかり、充実した研究生活でした』『素晴らしい人々と出会うことができたこの一年間は、一生の思い出であり、私の財産です』などの所感を卒業前に残し、最後は一年を思い出深く振り返って巣立って行きます。以下に、ある雑誌の取材で当研究室の修士学生が語った内容を紹介します。『現在、高い能力を備えたコンデンサを作るため、金属の酸化皮膜を利用した微細加工に関する研究に取り組んでおり、秋には京都で開かれる国際学会で論文発表を行う予定です。ゼミでは、国内外の学会で評価を得ている先輩の姿に大きな刺激を受け、「自分も頑張れば国際的に通用する研究ができる!」と意欲に

燃えています。』化学系学科と建築系学科は実験も卒研も特に大変だと学生達がぼやいていますが、教員もそれだけ多くの力を卒業研究や実験に注いでいるのです。付記しますと、どの理工系大学でも最近偏差値が高いのは建築系と化学系です。技術を身に付けることの重要性を世間が認識している証ではないでしょうか。

研究を発展させる力は、成績とは必ずしも関連していません。卒研に仮配属で入った留年生が、驚くほどの創造力、纏める力、プレゼンテーション能力を発揮するのに接して感動させられることがしばしばです。また、研究も個性を持っていて、その人なりの色合いが出ます。その色合いも楽しいものです。10年ほど前に、学会誌に頼まれた随想の題名を「研究は出会いとハーモニーのなかで」として記したことがあります。本学でのさまざまな出会いと、そこに集う人たちが醸すハーモニーが豊かな成果を作っていると思っています。“研究にバラの香りを”という理想はなかなか到達できませんが、少しでも近づきたいものです。

研究に関することのみでなく、それまで話したこともなく学年も違った学生達が一研究室に所属し、集団生活を送る中で、組織を統率する力、楽しい日々を過ごす力、仲間のミスをフォローする力、を発揮するのを見ることも楽しいことです。当研究室から生まれる研究成果自体も大切に思っていますが、同時に、研究成果はあるいは誰か他の人が10数年を経れば解明・実現するようなことかもしれないのに対して、毎年20人近くの学生に及ぼす教育効果の方がはるかに重要なものなのではと思うことが度々あります。しかしながら、研究者である我々は、やはり研究の喜びを共有することを通してしか、学生を鼓舞し教育する方法を知らないのです。

我が研究室の日々の中で、もうひとつ驚きをもって見た事は、女子学生に関して、です。本学に来るまでは、女子学生に接することは多くありませんでした。今から思えば以前に指導していたある修士の

女子学生は大変優れた実験家でしたが、それは個人の資質の故と思っていました。本学の応用化学科に来てから大勢の女子学生を担当し、真面目な姿勢、理解の正確さ、実験の的確さ、粘り強さ、意思の強さ、どれを取っても平均的男子学生をはるかにしのぐことを知りました。彼女達の残した成果を研究会などで語るときは、いつでもその本人について誇らしく語ってしまいます。研究室のリーダーシップを取るのも女子学生ですが、他大学の先生方に伺っても同じ意見で、「研究室の男の子が後について行きますね」と云うと「研究室の男の先生もついて行っています」と冗談が返ってくる程です。そのような女子学生が社会に出て苦勞するののかと思うと可哀想でしたが、最近では企業もよく実態を認識しており、優良企業で活躍することが多くなってきています。



修士卒一期生の女子学生と

子供の数の減少を受けて、大学の姿も変わらざるを得ないとの声を聞きます。明治の創業以来の伝統を持つ工学院大学は、今後どのような変遷をたどるのでしょうか。今までに築かれてきたものを捨てる時代になるのでしょうか。過去・現在に蓄積された素晴らしい工学院大学の中身を世間に知らしめるために、広報活動も一部署でなく全学をあげて意見を募り討論し、OB・OGの協力も仰いで対策・戦略を築き上げ、乗り切って行きたいものと思うこの頃です。

受理 平成18年3月15日

四国E Vラリー優勝報告

竹本正勝 工学院大学電気工学科講師



本学E Vプロジェクトは「四国E Vラリー大会」での優勝を目標に、2001年から活動しています。E Vプロジェクト2005チームは前年度に続いて2005年度も4月から活動を開始しました。

その結果、四国E Vラリー2005の不整地走行競技において見事優勝しました。これまでの校友会からのご援助に感謝を込めて、これまでのE Vプロジェクトの歩みについてご報告いたします。

今回優勝した「四国E Vラリー大会」は公道での走行が可能な電気自動車による実用走行と効率的な充電、走行の安全性を目指すとともに、エコ交通システムの普及を呼びかけることを目的とした一般公道ラリーで、1998年より毎年四国4県を順に巡って開催されています。8年目の2005年は徳島県での3回目の開催となり、徳島県板野市にある徳島工業短期大学を主会場に、その周辺の公道を使用して8月27～28日の日程で開催されました。参加車両の大きさやバッテリーの種類によってクラス分けされていて、普通車クラスもあり、本学チームはミニカークラス（カテゴリー3-3）になります。

初めて参加した2001年の香川県こびら大会では



ミニカー部門（カテゴリー3-3）での参加チームが少なかったことも幸いして初参加でロングディスタンス部門で優勝しました。ロングディスタンス競技部門は大会期間2日間での走行距離を競うもので、この大会のメイン競技です。

2002年は愛媛県新居浜市で開催され、カテゴリ3-3で燃費競技でチーム優勝に輝きました！燃費競技では1周1キロ余りのコースを数回廻り、いかに低燃費（低電力消費）で走るかという、車の性能とドライビングテクニックの両方が要求されます。このときのドライバーが車の性能を十分に引き出し、見事に優勝しました。

また、ロングディスタンス競技：2位、加速・ブレーキ競技：2位という堂々たる成績でした。

2003年はメンバーが集まらず、大会参加は断念しましたが、2004年はメンバーが6人と少人数でしたが大会には参加することが出来ました。2004年の大会は高知県の高知工科大学を主会場に、周辺の公道を使用して開催され、ロングディスタンス競技でもパワーが必要なコースになっていました。しかし、メンバーが少なかったこともあって小幅な改造にとどまり、バッテリーもモーターも初参加当時のままで、出力不足が気になる状態でした。その結果、どの部門でも上位入賞が出来ずに他チームの技術の進歩を再認識する結果となりました。

2005年の四国E Vラリー大会ではロングディスタンス競技と不整地走行競技の2種類となり、ロングディスタンス競技部門ではどのコースも通過ポイントになっている四国遍路の各札所が山の上にあることが多く、登坂能力と加速性能及び長距離走行性能が要求されました。また、不整地走行競技部門は主会場となった徳島工業短期大学構内の不整地にコー

スを造り、そこでの走行タイムを競う「ダートトライアル」競技です。



そこで、心機一転して各部門での優勝を目指して、出力を増強することにしました。まず5年前のリチウム電池の出力が低下していたので、新規に高性能のものを購入し、交換することにしました。これに伴って車体を補強し、各車輪に永久磁石界磁直流モータを2台並列に取り付けることで、出力アップを図りました。この結果、平坦路において60km/h以上で走行することが可能となり、加速性能も満足できる状態になりました。

また、リチウムイオン電池を新規に購入したことで、新たに電池ボックスを製作しましたが、設計上の不備から寸法が合わず、作り直すことが必要になりました。こうして、33.6V246Ahの容量を確保して、初参加当時の約2倍の容量にしました。しかし、予備電池が無く、充電にも時間がかかる等の不安を抱えたままとなってしまいました。

このような失敗もあり、予定を大幅に遅れ8月中旬になって車体の改造が完成し、千葉県にあるNATSのサーキット場を借用して走行試験を実施しました。その結果モータを4台搭載したことによる加速性能の向上を確認できたのは大会直前でした。

やっと準備が整い、いざ出発というときに関東地方に上陸した台風11号の影響で、輸送予定のフェリーが欠航してしまい、急遽暴風雨の中を陸路で搬送し、大会前日になりやっと現地入りできましたが、準備時間が余りとれないまま大会に参加することになりました。

こうして臨んだ結果、ロングディスタンス部門では8チーム中5位と不本意な成績でしたが、「ダートトライアル」部門ではドライバーのドライビングテクニックによってベストタイム53.14秒をたたき出し、見事優勝しました。

このように、学生たちが物作りを通して、失敗を重ねながら成長して行くことで、教育機関としての役割が少しは果たせているのではないかと考えています。

私達にご協力いただいた大学、校友会、後援会、先生方、その他大勢の方々に感謝いたします。たくさんのご協力をいただき、優勝という大きな実績を作ることができました。ありがとうございました。

今年はロングディスタンス部門でも優勝を目指して活動を開始しています。今後ともE Vプロジェクトに対するご支援をお願いいたします。



輝かしき先輩たち ——山田風太郎のように現代に蘇らせた

類洲 環 (1968年、建築系学科卒業)



■あなたは、歴史を歪めている

建築書籍の出版社に在籍していた時のことである。今から10年前の話である。昭和初期に竣工したある建物の地階の倉庫から、建設当時の図面が大量に発見された。オーナーは、これらの図面を記録集にして後世に残したいと考えた。その制作の声が当社にかかり、私が担当となった。こうしたものの常識で、ハクをつけるために、監修者に建築評論家としても名高い東京大学教授を迎えた。彼の先生は、私と同年であった。

本にまとめるにあたり、私は私の信じる想いを貫いた。相手は図面である。建築以外の……本大学にある機械も電気も化学の分野にとっても、たぶん図面は重要なツールなはずだ。そして、その図面は、限りなく原寸に近いのが理想ではないのか。つまり、縮尺は大きいほうがいい、そして図面も“作品”だ、と私は信じていた。いや、今も信じている。

オリジナルの図面には用紙のなかに余白がかなりあり、その配置も美しくなかった。そこで、私は、1/200よりは1/100のほうが良いという想いととも、図面を見やすく・美しく“修正”した。校正のとき、私の同年のキャリアの建築史家は、私を指差し激怒した。「あなたは、歴史を歪めている。ありのままを伝えるのが私たちの責任です」。

所詮、同年とはいえ、編集部員の私と、東京大学教授の監修者では勝負にならないのは眼に見えていた。結局、最初からやり直しになり、発行も遅れ経費もかかり、私は会社を去る羽目となった。退職金は「あなたは、歴史を歪めている」であった。でも、その価値は余りに高額で尊いものであったので、現在の私の精神的・経済的生活を支え続けてくれている。

■近代建築史上で重要な存在の先輩たちがいた

早い話がリストラされたわけで、辞めた後の保証や計画など何一つなかった。ハローワークに通っていたある日、大学の後輩から連絡を受けた。建築系学科同窓会の広報誌『NICHE』の編集に加わらないかと……。ボランティアだけれども、何かしないと不安であることも手つだい、喜んで受けた。

ボランティアだからといって、いい加減なものを同窓生に送れない。改めて、本校の創立からを調べた。本校の前身である「工手学校」は「各専門技師の補助たるべき工手を養成する」学校であった。即、

現場要員の養成である。そして、その「各専門技師」とは、要するに「帝国大学」卒業生である。何だ、昔から工学院大学は東京大学にコキ使われる運命だったのかと、あの同年の教授の、眉間に皺を寄せて私を指差しながら怒鳴っている姿が揺れて過ぎた。

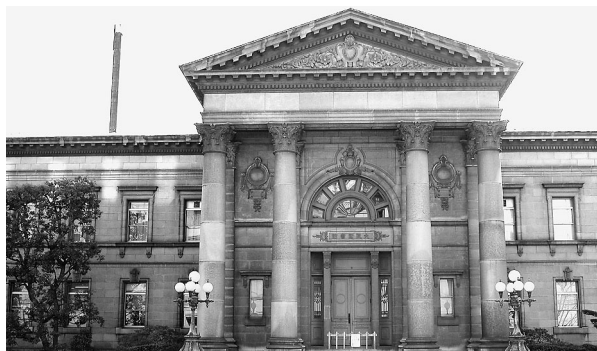
しかし、いろいろと調べていくうちに、そんなヒガミ根性はいつしか消し飛んでいた。建築家として活躍する「帝国大学」卒業生の元で、重要な存在として輝く「工手学校」建築系学科卒業生がいることに覚醒させられた。

「日本銀行本店」の工事主任になった人、国重要文化財の「松本健次郎邸」を工事監督した人、東京・神宮外苑のシンボル「絵画館」を設計した人、「函館聖ハリストス教会」の設計者の息子にして「世田谷美術館」の設計者の父であった人、群馬県高崎市の名物「高崎観音」を設計した人……近代建築史上、貴重な足跡を残した先輩が結構いるではありませんか。この人たちを後輩に伝えたい！

——そこで『NICHE』誌上で連載が始まったのが「輝かしき先輩たち」である。



現存する建築群①「日本銀行本店」
(工事主人：山本鑑之進／竣工：1896年／卒業：1889年〈第1回〉)



現存する建築群②「大阪府立中之島図書館」
(主任技師：久保田小三郎／竣工：1904年／卒業：1890年〈第3回〉)



現存する建築群③「ストロングビル」
(設計：矢野又吉／竣工：1938年／卒業：1905年〈第16回〉)



現存する建築群④「絵画館」
(設計：小林正紹／竣工：1926年／卒業：1909年〈第39回〉)



現存する建築群⑤
「高崎観音」
(実施設計：石川文二郎／竣工：1926年／卒業：1935年〈第48回〉)

■ボランティアで、何でもここまでしなければならないの

はっきり言って、彼らはメジャーではない。当然のように、資料は乏しい。その乏しい資料を前にして私は考えた。ただ略歴や業績を資料に添って羅列するだけでは面白くない。その略歴や業績の“間”に滲んでいる先輩の想いに近づけないものだろうか。それは、私が、その時代にタイムスリップすることにはかならなかった。もとより背景は曲げられ

ないが、100年前の“現場”にいるのは私だけである。平成の時代の人なんて誰もいないし、誰も見ていない。当時の人が生きているわけでもない。私は、歴史のなかを自由に歩けた。私は歴史学者ではない。編集者だ。好きな所で立ち止まっては妄想を膨らませ、寄り道しては想像を巡らせた。そうした想いを記述することが「歴史を歪めている」になるのか。私は歴史学者ではない、編集者なのだ。

思えば、司馬遼太郎や池波正太郎だって、歴史の中を自由に歩いてきたのだ。ならば、私が師と仰ぐ山田風太郎に倣って、波乱万丈・奇想天外・抱腹絶倒の物語にして「輝かしき先輩たち」を現代に蘇らせよう。

歴史を歪めるにしても、根底に真実がなければ迫力あるドラマにはならない。できる限りの真実は収集した。まずは遺族探しである。例えば、ある先輩をネタにするとしよう。まず、タウンページをめくり、彼が住んでいた地域の“同姓”の家に電話をかけまくる。「工手学校の建築科を卒業された〇×さんのご遺族ではありませんか。」相手が「金田一」や「寛」とかいう名前なら楽だが、「鈴木」や「山田」だったら大変だ。三日はかかる。それで、良い返事をいただければいい。99.999%が、相手にされない。0.001%は何かというと、「それは私の父です」と答えてくれたのだ。

そのときの嬉しさは、編集を商売にしている面目がないが、言葉では言い表せない。涙が溢れる。目下、10人の先輩たちを書き終えたが、二人は、この電話作戦で遺族の方に知り合えたのである。それにしても、ボランティアで、何でもここまで俺がしなければいけないのかと思うことが正直にいつもある。家族からも呆れられている。

■建築系学科の女性卒業生第一号は誰だ

「輝かしき先輩たち」は、私のライフワークとなった。そして、今はたいした仕事はしていないし、もう還暦を迎えた編集者にビック・プロジェクトは来そうもないから、「輝かしき先輩たち」は私の最大級の業績となるだろう。

となると人情で、まとめて世に聞きたいという想いに唆される。で、あちこちの出版社に話しをするのだが、食指を動かすところは1社もない。「工手学校？地味だねー、これは売れない」「工学院大学の前身の卒業生たちだって、一人も知らないよ」……。しかし地味で、一人も知らないから、光を当てて知らせようとしているのだ！

10人の先輩たちを書き終えて、一段落というところであるが、まだまだ探す元気はある。次のネタは、建築系学科の女性卒業生第一号である。どうしても登場させたい。

どなたか、ご存知ではないでしょうか。そして、本を出版して下さる方はいないでしょうか。

生態学と土木工学の接着剤

辻 正宏 土木科（平成元年3月卒業）



1. はじめに

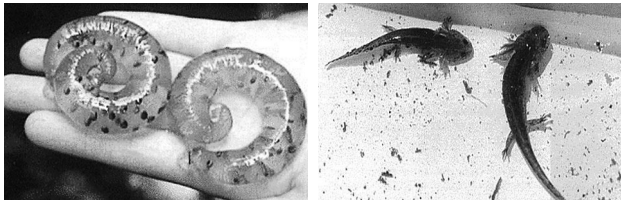
私の勤めている会社は、建設コンサルタントという業種で、公共事業を中心に建設に関わる調査（植物、動物などの自然環境調査、生活環境調査）、計画・設計（都市計画、まちおこし、環境条例の策定、道路、河川、公園、水族館、動物園、植物園）などの仕事をしています。ここ最近は公共工事縮減の中、街路樹の診断など建設というより維持管理の仕事などもしています。特に自然環境の復元・再生に関わる業務については自分の得意分野として頑張っているところです。また、最近よく住民参加やボランティア、NPOなど耳にしますが、計画地に住む地域住民の中に入り込んで住民の意見や要望をまとめ、設計に反映させる住民参加などの仕事もしています。

2. 接着剤として置かれている立場

自然環境の復元・再生とは、生態学と土木工学を結び付けたステージで答えを出さなくてはならない技術である。自分の役割は自然環境に与える負荷を最小限に留め目的とする整備と自然環境を結び付けることにある。場合によっては、学識者や専門家にヒアリングを行い進めている。時には実験も必要となる場合もある。また、計画地の周辺に住む住民と計画内容について合意形成を図りながら事業を進めていくことも常識化してきている。その計画が自然環境の再生の場として保全するだけでなく、環境学習の場として活用できるようにするなど地域社会の教育やコミュニティーの形成の場としても利用される視点で考えることが求められている。現在の土木工学では以上の他に影響がある生物に対して遺伝子レベルでの答えを求められる時代に変化し、複雑化している。

■生態系に配慮したエコロード

卵を採集し、育成後、サンショウウオの生息可能な池を調査分析後、復元し放生。その後のモニタリングでも活用の痕跡が見られた。



トウキョウサンショウウオの生息場所を復元（下）。



道路整備ホトケドジョウの特性を踏まえた魚道（下）。



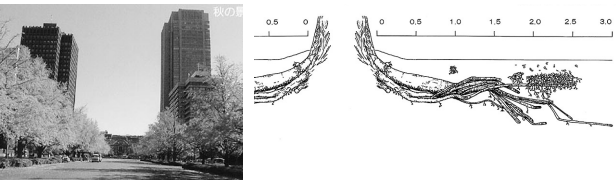
■住民参加、ワークショップ、環境学習



公園整備を利用した小学校の総合的学習の時間で講師としてドングリ拾いから育成、植樹までお手伝い。これも仕事。

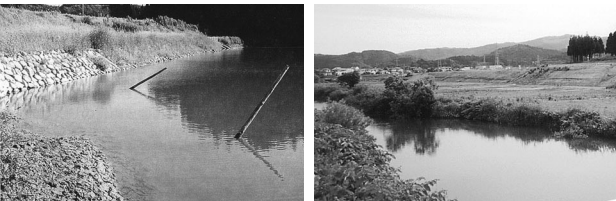
■街路樹診断

都心のヒートアイランド効果の抑制を目的としたモデル事業。イチヨウの巨木の樹勢回復を目的とし、衰退の原因を調査し、足りない土壌条件を補う土壌改良の設計を行った。イチヨウ並木とイチヨウの根系（下）。



■河川における自然環境の復元

現況の自然環境に負荷を与えない最低限の保全整備を行った。植栽は行わず自然の回復性に委ねた。地場産の資材の活用や地元ボランティアの活用、自然観察等の学習機能への展開を図った。カワセミの餌場と止まり木と施行直後の状況（下）。



■公園における自然環境の復元



面積約50haの公園内に自然環境の復元を行った。造成直後の景観（左）。約2年後の景観（下）。水辺から樹林を有する多様な環境に。また、水は湧き水を利用した。



■動物園の生態環境展示

自然環境再生復元の技術は動物園の動物の生態展示に展開。土にもぐるブレリドックの特性を利用したのぞき窓型の展示の例（下）。



【受賞作品】

平成13年2月 第27回全国造園デザインコンクール／主催（社）日本造園建設業協会 入賞
平成14年7月 第14回日本の自然を描く展／主催 フジサンケイグループ・JR東日本 入選
平成14年9月 秋田県一級河川芋川 平成14年度災害復旧優秀賞の最優秀賞
平成15年5月 「神奈川県における街路樹診断」／ランドスケープコンサルタンツ協会賞 調査計画部門優秀賞受賞

【主な共著書・発表論文等】

平成10年1月 日本造園学会・造園作品選集1998 「菊名池公園」「豊橋動植物公園」
平成10年6月 日本造園コンサルタント協会、LCジャーナル138「エコロード：トウキョウサンショウウオに対するミテイゲーション」
平成12年5月 地学団体研究「両生類の保全活動における地質学の適用事例-丘陵地における道路建設とタゴガエル」
平成13年7月 助経済調査会、「市民参加時代の美しい緑のまちづくり」、豊かな環境に出会えるまち くまがや環境基本計画策定段階における住民との協議
平成15年7月 （社）建設コンサルタンツ協会第36回業務研究発表会、「神奈川県における街路樹診断」発表
平成17年8月 日本樹木医会「ツリドクター」
行幸通りイチヨウ並木の土壌・根系調査報告

現在（株）建設環境研究所 主査研究員

第58回製図・作品展協賛第5回OB作品展

OB展実行委員 渡辺 征三

第5回を迎えたOB作品展は、昨年の出品者のほか、親子で本業の建築に加え、絵画を伝承され、さらに尺八師範として活躍されている佐藤工さんの膨大な資料、絵画に圧倒されました。ベットに介護、リハビリ機能などを追加考案して事業展開を紹介した長尾さん。両氏は2日間に渡り懇切丁寧に説明されました。写真作品は、それぞれプロ級の腕前であり、普通の写真では感じ得ないカメラマンの訴えるもの見る人に伝わった。今回は、会員それぞれの本業の作品を始め、趣味の陶芸、手芸や俳句などを加え、さらに盛大にしたいと思いますので多くの会員の皆様の御協力をお願い致します。

第58回 製図・作品展後援会、同窓会第5回OB展参加作品リスト(2005年度)

20051120(日)～20051121(月)

氏 名	作品名
渡辺孝夫元土木課長	建築科昭和44年卒業 水上温泉郷案内カタログ（みなかみ温泉案内）
辻 正宏	土木科平成元年卒業 羽生水郷公園計画、エコロード等
佐藤 工	建築科昭和31年10月卒業 画集他
小倉将宏	建築科昭和38年卒業 水彩4点（コスチューム、風景）
酒井史生	機械科昭和43年卒業 写真2点（弘前りんご街道、世界遺産白神山地ぶな林）
大越政志	土木科昭和53年卒業 建築金物製品カタログ紹介（昭光通商K.K.）カナデアンレイナター
佐久間惣喜	建築科昭和36年卒業 風景写真3点
書上 正	金属加工科45年卒業 風景写真4点（秩父大血川左岸、秩父白泰山、那須姥1が平、那須湯川両門の滝）
小野伸雄	建築科昭和39年卒業 水彩2点（山田静謐、トランベット）
渡辺征三	機械科昭和43年卒業 水彩風景2点（朝焼け、北浅川）
阿部 洵	金属加工科昭和44年卒業 風景写真8題（横手山浜時、志賀高原三角池、奥志賀溪谷雑魚川大滝、奥志賀溪谷雑魚川山梨県忍野村の紅葉（忍野八海、二十曲峠）
西澤千尋	建築科昭和32年卒業 版画エッチング（縄文だんご三兄弟）
長尾一郎	建築科昭和31年卒業 セルフ・リハビリベット
佐藤敏勝	建築科昭和37年卒業 写真10点（祭りださあ出陣、祭りだワッショイ、吊るし雛、小手指金仙寺の桜、バツクに好かれた曼珠沙華、鯉の花模様、祭りのひと時、上高地三神滝、朝霧の大正池、天井の幾何模様）



「新校舎と教育課程について」

竹花有也 工学院大学附属高等学校教頭



新たな高等学校の始まり

念願の新校舎における生活が、18年4月から始まりました。校舎は鉄筋コンクリート4階建て、1階から4階までの吹き抜けのアトリウムが配されてキャンパス全体が視覚的なつながりを持っており、生徒同士のあるいは生徒と教職員のコミュニケーションが、今まで以上に密になるよう工夫されています。また、屋上には天体観測ドームがあり、理科への関心を高め、こうした環境のなかで、学習意欲の向上を図り、さらに創造性、知的好奇心や探求心を育むことを目指しております。

校名と正面入り口（18年1月撮影）



正面玄関を入ると、正面上方に原語（ギリシャ語）で「エー・アレーティア・エレウテローセイ・ユーマス」と刻まれた言葉が、生徒や来校された方を迎えています。

この言葉は、前校長の城戸先生が、生徒たちに日々校舎で探求し発見すべきは何であるかを想起してほしい、という願いを込めて贈られた格言です。

「真理がわれらを自由にする。」

Η ΑΛΗΘΕΙΑ
ΕΛΕΥΘΕΡΩΣΕΙ
ΨΜΑΣ

教育課程について

18年4月から本校の教育課程は、次のようになりました。

全日制普通課程	1 学年315名（8クラス編成）
一貫コース	80名（2クラス編成）
普通コース	195名（5クラス編成）
文理特進コース	40名（1クラス編成）

の3コース制の学校となります。

ここでは新たに設置されました文理特進コースについて、紹介いたします。

21世紀は「複雑系の科学の時代」といわれております。本校に設置した特進コースは、文理の枠を超える一貫した教育を学校教育の中で、特殊な分野に特異な才能を有する人材を育成すること、つまり「今こそ文理シナジーの教育を」を目標に設置されました。カリキュラムの特色は、

◎文理融合のカリキュラム

21世紀にグローバルに活躍する人材の育成。

◎大学入試センター試験に対応するカリキュラム

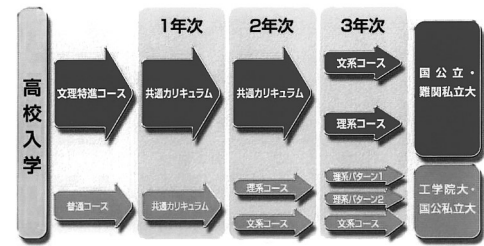
5教科7科目型、難関国公立・私立大を。

◎1 学年37単位履修

2年まで共通、3年で文系、理系のコース選択。

◎創意工夫をこらした教育方法の展開

■コース紹介



「進化する工学院！新たなステージへ！」を教職員一同合い言葉に、城戸前校長が引いた路線を新校長の下、実現すべく新校舎で取り組んでおります。

【校友の皆様方へ】

平成18年6月17日(土)

新校舎の落成式が予定されております。

ご来校お待ちしております。

“へんぴな” 工学院中学校の生徒募集を支えた生徒たち

橋本 勉 工学院大学附属中学校教頭



ある6年生が模試を受け、志望校欄に工学院を書いたところ「へんぴな場所にもかかわらず、人気上昇傾向は続くと思われる。合格圏内にはさらに努力が必要」とコメントされていました。(笑) この親も「自分の子どもを良い環境で学ばせたい」と望んでいると思います。良い環境を探すために、親が学校に足を運び、話を聞いて、見て、判断していくわけですが、その際に在校生の姿(印象)が、判断のための大きな材料だと思います。今回この誌面をお借りして、学校説明会(7回)と入試(3日)に積極的に係わってくれた生徒たちのことを紹介します。まず、上の写真は、参加してくれた生徒たちです。他の人が休みの日に、ワザワザ登校してくれたりした生徒たちです。次に、この中の2人のコメントを読んで下さい。



「これからいろいろなことに貢献していきたい」 2年 増田匡治



僕は1年生の時から、できる限り学校行事の手伝いに参加しています。僕が参加するきっかけになったのは、工学院の入試のときに挨拶してくれた先輩の印象や、小学生の時から手伝いが好きだったことなどですが、一番の理由(きっかけ)は、中学受験で第一志望だった神奈川大学付属中学校の受験生への対応が良く、自分も受かったらやろうと思ったことです。(結果は不合格でした…)最初は不安などもあり、友達に誘われてやっていたことが多かったのですが、やっていくうちに楽しくなって、自分からやるようになりました。約2年間手伝いをして、受験生と触れ合えたり教えることが多いけれど、逆に自分の知らなかったことを教えてもらえ、有意義な時間を過ごしたと思います。僕は残り1年間もいろいろなことに貢献していきたいと思います。

「自分の学校について受験生に話せるのがうれしい」 2年 福田ゆき乃



私は中学1年生の時から学校説明会や入試の手伝いに参加しています。もともとこの学校が第一志望だったのですが、ある説明会の時に先輩の話しぶりに感激して、入学後は何とか学校に貢献したいと思ったからです。

参加する前は、「ただ話すだけだから簡単だろう」と思っていたのですが、実際に話してみると自分の言いたいことがなかなか言えず、かなり難しいことがわかりました。でも自分の学校について受験生に話せることはとてもうれしいです。これからもこの学校の良さを後輩やいろいろな人たちに伝えていきたいと思っています。

(次はある3年生男子を紹介します。)

「僕はトラブルメーカーだった」

僕は小学校の時は他人とうまくやっていくのが苦手で、トラブルメーカーでした。そんな僕が受験をして私立に入ろうと思ったきっかけは、同じ委員会活動の先輩が受験をして私立の中学校に合格したことです。ひょっとしたら僕にもできるのではないかと、思い塾に通い始め、受験をしたのでした。

さて、トラブルメーカーだった僕がこの中学に入ったらどうなったでしょう？ 1年生の頃、周りの人に迷惑をかけ先生に個別に呼ばれ、怒られてしまったことも何度もあります。しかし、今までの自分を見直し、学校が経験させてくれる行事やボランティア活動に積極的に参加し大きく成長しました。

中学2年の時に、立候補して生徒会長になりました。会長になって新たに得たこともたくさんありました。その中で一番良かった点は、「自分から進んで何かをやる姿勢が身についた」とことと「生徒会活動を通じていろいろな人と出会った」ことです。この学校では、行事を含めいろいろなことを経験させてくれます。海へ行ったり山へ行ったり、宿泊行事へ行ったり、リサイクル活動をしたり、このように学校説明会のお手伝いをしたり……様々なことを経験させてくれました。本当にこの3年間はとても楽しかったです。

追記(橋本) このような生徒たちの姿が親たちの判断材料になっていることは想像に難くありません。

なお、9月に中学校開校10周年記念式典を行ないます。この10年間本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

再び琵琶湖へ

機械工学科 飯田明由



昨年の校友会報にも鳥人間サークルの記事を書かせていただきましたが、再びこのように会員の皆様に鳥人間サークルの近況を伝えることができることを非常に嬉しく思います。すでに広報を通じて大会の内容は皆様にも伝えられていると思いますが、工学院大学鳥人間サークルWendyは第29回鳥人間コンテスト滑空機オープンクラスにおいて第4位（大学・高専チームとしては2位）となりました。機体は新設計のNAZCAです。NAZCAの地上絵のように悠然と琵琶湖の空を舞いました。パイロット・チームのTRD（チーム・ローズ・ドーソン）は女性だけのチームです。チーム名は映画タイタニックのヒロインであるローズ・ドーソンから取ったもので、最後まであきらめない女性を象徴しています。230.88mという記録は女性パイロットとしては歴代2位の記録です。



2004年大会終了後、サークルメンバーはこれまでの問題点について検討し、着実に離陸する機体の開発、大会までのスケジュールの管理、パイロット・チームのトレーニングや機体の荷重試験など2004年度の失敗から学んだことを活かすよう努力してきました。そのような努力によって、大会挑戦2年目にしてこのような好記録が実現されました。顧問として学生たちの活動を誇りに思います。また、同時に多くの方々の支援があったからこそ、このような記録を母校に持って帰ることができたと思います。

技術アドバイザーの水野教授、横山教授、塩田教授、矢ヶ崎教授、足立助教授からは機体の製作に関

して絶大な支援をいただきました。また、大学からは創造活動支援委員会を中心に学務課や広報部など多くの職員の方々にご協力していただきました。2004年度から犬目キャンパスを利用できるようになったこともサークル活動にはプラスでした。機体の組み立てだけでなく、犬目キャンパスでテストフライトや訓練を行えたことも他校よりも有利な点でした。大学からの絶大なる支援に感謝いたします。

校友会や同窓会、ご父兄からも多くの支援を承りました。OBの方々から「鳥人間コンテストの結果を見たよ」という連絡がいくつもありました。この場をお借りして皆様に御礼申し上げます。

さて、大成功に終わった2005年度ですが、実はこれからが難しいと思います。春には立派な創造工房も完成します。他大学に比べて恵まれた環境で活動する本学の学生たちですが、いつしかそれが当たり前のように感じてしまうようになるかもしれません。予算が少なかったころは、工夫してやりくりしたことも、予算が増えると無駄なことに使うようになるのは大人でもよくあることです。琵琶湖での夢をかなえた今こそ、もう一度活動について考える必要があると思っています。これからもWendyが設立されたころの“技術も予算もないけれど、琵琶湖に行こうという夢があったころ”を思い出しながら、失敗から学ぶ姿勢を忘れずに、新しいことにチャレンジしていきたいと思います。

2006年大会は30周年記念大会ということで大会のルールが若干変更になります。Wendyはこれまでの滑空部門から人力プロペラ部門に挑戦します。技術的には難しくなりますが、メンバーの出した答えは、“新たなチャレンジ”でした。Wendy結成時に水野先生も私も出場までには5年くらいかかるかなと思っていましたが、実際には4年で大会4位の成績を収めました。学生が本来持っているポテンシャルは我々の予想以上のものです。新体制でのWendyはきっと皆様に驚かせる結果を出してくれると思います。応援よろしくお願いいたします。

校友会事務局からのお知らせ

◆維持協定会費納入のお願い

在学中に納入していただいている終身会費だけでは校友会の運営が難しくなっている状況にあります。社団法人格を有している工学院大学校友会としては、学園に対して今まで以上に援助して行く必要があります。同封の振込用紙により皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

◆E-mailアドレスをお持ちの方は是非ご協力を！

平成14年3月から会員に対し、E-mailによる校友情報ネット発信態勢の構築に取り掛かっております。将来はE-mailによる情報発信を活発化することを計画中でありますので、E-mailアドレスをお持ちの方（携帯アドレスは不可）は、同封の総会出席返信はがきには是非ご記入の上、投函下さいますようお願いいたします。なお、既に受信している方は、登録の必要はありません。

●工学院大学校友会STEC VISAカードのご案内

工学院大学校友会STEC VISAカードは、

1. (社)工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがご持ちいただけるエンブレムカードです。(工学院大学校友会と三井住友カード(株)が提携発行する公認カード)
2. 会員の方がこのカードをお使いになると、その利用金額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社により校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は、一切負担になることはありませんので、申し込みご希望の方は、同封の総会委任状ハガキの連絡欄に○印をつけてご返送下さい。

上記の件でのお問い合わせは、校友会事務局 TEL 03-3342-2064・03-3340-1649

FAX 03-3342-2035

E-mail jim2@kogakuin.or.jp

■平成18年度 支部総会開催予定（平成18年3月31日現在）

開催月日	支部名	開催場所
3月22日	清水建設支部	メルパルクTOKYO
4月16日	山口県支部	シーモールパレス 2F
5月21日	栃木県支部	ホテルニューイタヤ
5月27日	全国支部長会	工学院大学 新宿校舎
6月3日	西東京支部	八王子クリエート・ホール
6月3日	愛知県支部	ホテル・ルプラ王山
6月11日	石川県支部	兼六荘
6月16日	山梨県支部	ベルクラシック甲府
6月18日	千葉県支部	船橋市勤労市民センター
6月18日	埼玉県中央支部	産学交流プラザ
6月18日	大阪支部	ラマダホテル
6月24日	高知県支部	荒磁
6月	広島県支部	
6月	宮城県支部	
7月1日	長崎県支部	花洛
7月7日	東芝支部	工学院大学 新宿校舎
7月8日	相模支部	ホテルセンチュリー相模大野
7月8日	横浜支部	ホテルセンチュリー相模大野

開催月日	支部名	開催場所
7月8日	川崎支部	ホテルセンチュリー相模大野
7月8日	湘南支部	ホテルセンチュリー相模大野
7月8日	西湘支部	ホテルセンチュリー相模大野
7月9日	体育連合OB会支部	工学院大学 新宿校舎
7月	山形県支部	
9月9日	北海道支部	
9月上旬	学園支部	工学院大学 新宿校舎
9月	鳥取県支部	
10月15日	東京支部	工学院大学 新宿校舎
11月4日	岩手県支部	
11月5日	新潟県支部	新潟駅前安兵衛
11月11日	大分県支部	別府つるみ荘
11月14日	日本電気支部	N E C 芝倶楽部
11月18日	福島県支部	いわき新舞子ハイッ
11月22日	沖縄県支部	エッカホテル
11月23日	長野県支部	
11月25日	京滋支部	きよみず
2月17日	三重県支部	ホテル・グリーンパーク津

第5号議案 校友会役員一部変更の件

校友会本部役員について下表の通り変更いたします。

	変更前	変更後
前田 道德	常任理事	理 事
並木 光雄	理 事	常任理事

◆次の方々が今期の政策諮問委員（Strategic Advisor）に委嘱されております。

青木 浩一 氏（昭和31年 機械工学科卒）プラスセイコー株式会社前社長
高田 貢 氏（昭和37年 電気工学科卒）フォスター電機株式会社前社長
姫野 有文 氏（昭和38年 電気工学科卒）佐世保重工業株式会社前社長
森 茂樹 氏（昭和35年 電気工学科電子工学コース卒）横河ヒューレットパッカード前取締役

第6号議案

社団法人工学院大学校友会個人情報保護政策（案）

社団法人工学院大学校友会は、基本的人権とプライバシー保護の観点から、個人情報の適切な利用と保護の徹底をはかり、校友の信頼を得るために、個人情報に関する法律を遵守します。また、校友の個人情報は学園と共同利用し、個人情報の取り扱いについては次のようにします。

1. 登録している個人情報と利用目的

校友会が登録している個人情報は、会員No.・氏名・フリガナ・性別・卒業年・卒業学部（学科）・所属研究室・現住所・同電話番号・勤務先・同電話番号です。校友会の目的である「会員相互の親睦をはかり、学園の発展に寄与する」ために個人情報を利用いたします。具体的には、
(1) 「校友会報」、「同窓会誌」の送付
(2) 大学からの案内や就職に関するアンケート等の送付
(3) 校友会の各種行事の案内の送付
(4) 校友会の各支部や同窓会からの総会・各種行事等の案内の送付
(5) 各研究室からの各種お知らせ等の送付
(6) 各同窓会の卒業年度別の学年同窓会案内の送付
(7) 学園に対する就職活動の支援
(8) 校友名簿発行（現在、CD-ROM名簿発行は2005年から中止しております）などです。

2. 個人情報は第三者に開示・提供いたしません。

校友会では、会員のご承諾が無い限り登録された個人情報を、法律に基づき開示しなければならない場合や前項に記載の使用目的の場合を除き、第三者に開示・提供はいたしません。また、「校友会報」、「同窓会誌」等の発送に関しては、校友会が信頼できる会社と秘密保持契約を結んだ上で委託し、発送を行ないます。

【個人情報の記載を希望されない会員の皆様へ】

校友会会員名簿への掲載、校友会支部等からの案内や在学生の就職活動での利用を希望されない方は、校友会事務局まで文書でお届け下さい。その場合、会員No.、氏名、学科、研究室を残し、他のデータはすべて削除いたしますので、以降の「校友会報」、所属する同窓会の「同窓会誌」、学園や校友会の各種催し等のすべての案内が発信出来なくなりますのでこの点ご留意下さい。なお、お届けが無い場合は、原則として「公開可」扱いといたしますのでこの点ご了承下さい。

3. 個人情報は本人の申し出によりいつでも開示し、また変更・削除できます。

校友会では、会員ご本人より申し出があった場合に限り、その登録情報を開示します。また個人情報の追加・訂正または削除は、ご本人の届出により行います。引越し、住居表示の変更、勤務先の変更などの場合は、ご連絡下さいますようお願い致します。

最近、工学院大学卒業生に対して、工学院大学や校友会と紛らわしい名前を騙り、電話やハガキで個人情報を集めているケースがありますのでご注意ください。校友会としては、個人情報を電話やハガキで問い合わせることは事前にお知らせする場合を除いて行なうことはありません。外部からの個人情報の問い合わせには、必ず発信元の住所や電話番号を確かめたくえて対応下さい。不審な場合は、校友会事務局（下段参照）までお問い合わせ下さい。

4. 個人情報は厳重に管理しています。

校友会では、個人情報の紛失・誤用・改ざんや外部からの侵入がないよう厳重に管理し、一般の利用者がアクセス出来ない安全な管理下に保管しています。

5. CD-ROM名簿の発行について

CD-ROM名簿の発行については、当分の間、発行を中止いたします。校友の皆様には大変なご不便をおかけいたしますが、1項の個人情報の利用範囲内で校友会事務局として対応いたしますので、何かご要望がある場合は、校友会事務局までご連絡下さい。

連絡先	(社)工学院大学校友会事務局 電話 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035 Mail jimul@kogakuin.or.jp
-----	---

「第61回評議員会・第50回総会」開催のお知らせ

日時●平成18年5月28日(日) 12:30～

場所●新宿キャンパス（3階）アーバンテックホール

議案●第1号議案 平成17年度事業報告承認の件

第2号議案 平成17年度収支決算報告ならびに財産目録承認の件 監査報告

第3号議案 平成18年度事業計画（案）承認の件

第4号議案 平成18年度収支予算（案）承認の件

第5号議案 個人情報の取扱いについて

(注1) 本誌同封のハガキにより、折り返し出欠についてご回答下さい。ハガキに50円切手をお貼り下さい。

(注2) 定款施行細則第15条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思と見なして出席者に加えることができることになっておりますのでこの点、予めご了承下さい。

(注3) 総会・評議員会で発言を予定されている方は、事前に事務局までFAX03-3342-2035にてご意見をお寄せ下さい。

「総会当日のプログラム」

◆評議員会・総会

受付●12:00より

開会●12:30

議事●13:00より



◆講演会・表彰式等

学園近況報告●16:30～

学生・生徒の表彰状贈呈●16:45～

記念講演●16:55～

演題●「ビジネスマネジメントと校友会」

講演者●森 茂樹 氏

本学S35年電気工学科電子工学コース卒
横河ヒューレットパッカード元取締役役
本学園アドバイザリーボードメンバー

※なお、講演会終了後、中層棟7階食堂にて18:00から懇親会を開催いたします。

■学生・生徒の表彰報告（平成17年度総会において）

【大学院】

専攻	氏名
機械工学2年	町田 裕太
化学応用学2年	鈴木 智子
電気・電子工学1年	杉本 浩一
情報学2年	加藤 克宏
建築学2年	西村 悠子

【大学】

専攻	氏名
第一部 機械工学科2年	菅原 孝祐
第一部 機械システム工学科2年	石井 秀和
第一部 国際基礎工学科2年	竹花 翔一
第二部 機械システムデザイン学科2年	川満 美佳
第一部 応用化学科2年	佐々木 良輔
第一部 環境化学工学科2年	島 敬明
第二部 化学応用デザイン学科2年	伊藤 和明
第一部 電気工学科4年	上田 隆史
第一部 電子工学科3年	伊藤 潤
第一部 情報工学科2年	叶賀 佳織里
第一部 建築学科建築学コース2年	秋山 沙英子
第一部 建築学科環境建築学コース2年	高橋 奈津子
第一部 建築都市デザイン学科2年	官野 領
第二部 建築学科2年	笹原 怜子

【専門学校】

専攻	氏名
第一部 電気技術科2年	北川 祐二
第一部 インターネット・デザイン科2年	石川 優
第一部 建築科Bクラス2年	磯田 芳枝
第一部 建築科Aクラス2年	阿部 隆太
第二部 ネットワーク・エンジニア科2年	田嶋 健亮
第二部 電気技術科2年	鈴木 亨

【附属高校】

学年	氏名
3年	星澤 慈成
2年	安在 登
2年	鈴木 麻里子

【附属中学校】

学年	氏名
3年	原島 綾子
2年	岩澤 美帆

お詫び
昨年の校友会報Vol.126 32ページ、平成16年度総会における表彰学生一覧を掲載しましたが、次の2名の誤記がありましたので、下記に訂正し、お詫び申し上げます。

誤 正
第一部 電子工学科4年 菅 智茂 → 第一部 電子工学科4年 荒木麻美
第一部 情報工学科2年 正木 圭 → 第一部 情報工学科2年 久保政勝

■平成17年度 貸借対照表 (平成18年 3 月31日現在) (単位：円)

資産の部	金 額	負債及び正味財産の部	金 額
1.流動資産 2.固定資産	15,017,038 250,166,442	1.流動負債 2.固定負債 3.正味財産 (うち基本金)	93,050,113 6,185,600 165,947,767 (20,000,000)
合計	265,183,480	合計	265,183,480

■平成17年度 財産目録 (平成18年 3 月31日現在) (単位：円)

資産の部	金 額	負債及び正味財産の部	金 額
流動資産 1.現金預貯金 2.未収会費 3.前受会費未収金 固定資産 1.基本財産引当預金 2.什器備品 3.電話加入権 4.長期預金 合計	15,017,038 1,197,038 5,805,000 8,015,000 250,166,442 20,000,000 778,042 102,800 229,285,600 265,183,480	負債 1.一般預り金 2.在学生会費預り金 3.退職給与引当金 正味財産 (うち基本金) 合計	 135,113 92,915,000 6,185,600 165,947,767 (20,000,000) 265,183,480

◇ 受章・受賞 ◇

本澤 宗夫氏 黄綬褒章を受章
平成17年 4 月に本澤宗夫氏（昭和44年大学建築学科卒）が受章の榮譽を受けられました。おめでとうございます。

尾崎 明雄氏 旭日小綬章を受章
平成17年秋の叙勲で尾崎明雄氏（昭和33年大学建築学科卒）が受章の榮譽を受けられました。おめでとうございます。

樫尾 實氏 国土交通大臣表彰の受賞
平成17年 7 月に、樫尾實氏（昭和35年工学院大学専修学校卒）が、多年にわたり建設事業の振興に尽力され公共の福祉の増進に多大の貢献をされた功績により、国土交通大臣表彰を受けられました。おめでとうございます。

大山 正雄氏 環境大臣表彰の受賞
昨年、大山正雄氏（昭和45年大学院機械工学専攻卒）が、永年に渡り、箱根・湯河原の温泉を中心に調査、研究し、温泉資源の保護と適正利用の推進に多大な貢献をされた功績により、環境大臣表彰を受けられました。おめでとうございます。

計 報
次の方々をご逝去されました。ご生前のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈り致します。
専門学校元校長 鈴木敬治郎氏（平成17年 8 月 3 日）
校友会相談役 宮澤 正義氏（平成17年10月 6 日）
校友会名誉会員 森山 健次氏（平成17年12月 1 日）
校友会評議員 鈴木 一義氏（平成17年12月12日）

■平成17年度事業報告

平成17年度において下記の通りの事業活動を行いました。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設に関する助成 (定款第 5 条第 1 項)	1. 学園援助費寄付
学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第 5 条第 2 項)	1. 学生・生徒の研修援助 ①優秀学生の表彰 ②学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行 (定款第 5 条第 3 項)	1. 校友会報126号の発行（64,000部） 2. 会員名簿の更新・ラベルの発行
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第 5 条第 4 項)	1. 学術講演会開催（総会時） 2. 活動発表会（学生・OB－新年祝賀会時） 3. 各支部単位での見学会の適宜開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置 (定款第 5 条第 5 項)	1. 新年祝賀会・懇親会の開催 2. 総会後の懇親会の開催 3. 第15回全国大会（青森大会）の開催 4. 各支部の支援および支部組織の活性化 5. 各種同好会活動の支援 6. 各支部総会・懇親会の開催（42支部 750名） 7. 学園支援プロジェクトチームの発足・支援項目まとめ 8. 第 5 回ホームカミングデー開催への協力 9. 学園が行なう社会活動への援助・支援
学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第 5 条第 6 項)	1. 就職の支援 2. 大学後援会との懇談会開催

■平成18年度事業計画(案)

平成18年度において下記の通りの事業活動を行います。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設に関する助成 (定款第 5 条第 1 項)	1. 学園援助費寄付
学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第 5 条第 2 項)	1. 学生・生徒の研修援助 ①優秀学生の表彰 ②学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行 (定款第 5 条第 3 項)	1. 校友会報127号の発行 2. 会員名簿の更新・住所ラベル等の発行
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第 5 条第 4 項)	1. 学術講演会開催（総会時、新年懇親会時） 2. 各支部単位での見学会の適宜開催 3. 総合研究所主催の学術講演会への協賛
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置 (定款第 5 条第 5 項)	1. 新年祝賀会・懇親会の開催 2. 総会後の懇親会の開催 3. 各支部の支援および支部組織の活性化 4. 各種同好会活動の支援 5. 各支部総会・懇親会の開催 6. 学園支援活動の強化 7. 第 6 回ホームカミングデー開催への協力 8. 学園が行なう社会活動への援助・支援
学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第 5 条第 6 項)	1. 就職の支援 2. 後援会との連携強化

■平成17年度 収支計算書

平成17年 4 月 1 日～平成18年 3 月31日 (単位：円)			
科 目	予算額	決 算	差 異
①収入の部			
基本財産運用収入	60,000	120,000	△ 60,000
基本財産利息収入	60,000	120,000	△ 60,000
会費収入	35,684,000	35,323,000	361,000
会費収入	35,684,000	35,323,000	361,000
協定会費収入	4,000,000	1,961,000	2,039,000
協定会費収入	4,000,000	1,961,000	2,039,000
寄付金収入	200,000	140,000	60,000
寄付金収入	200,000	140,000	60,000
雑収入	450,000	483,986	△ 33,986
受取利息・配当	150,000	151,955	△ 1,955
雑収入	300,000	332,031	△ 32,031
当期収入合計(A)	40,394,000	38,027,986	2,366,014
前期繰越収支差額	5,864,000	5,864,583	△ 583
収入合計(B)	46,258,000	43,892,569	2,365,431
②支出の部			
事業費	25,415,000	23,394,272	2,020,728
学園援助費	2,500,000	2,041,871	458,129
学生生徒活動援助費	2,500,000	2,500,000	0
学生生徒奨励金	1,400,000	1,468,000	△ 68,000
会報印刷費	3,800,000	3,291,226	508,774
発送作業費	460,000	500,062	△ 40,062
郵送費	3,840,000	3,709,215	130,785
印刷費	1,550,000	1,367,903	182,097
協定会費割戻金	800,000	594,900	205,100
支部出張費	1,845,000	1,659,958	185,042
支部総会会費	250,000	242,000	8,000
支部関係雑費	300,000	64,541	235,459
給与手当	3,970,000	3,854,674	115,326
福利厚生費	150,000	46,410	103,590
全国大会費	1,500,000	1,500,000	0
全国大会経費	200,000	261,845	△ 61,845
校友ネットワーク構築費	300,000	251,667	48,333
消耗雑費	50,000	40,000	10,000
管理費	14,678,000	12,601,144	2,076,856
総会費	1,500,000	1,098,153	401,847
本部会議費	1,350,000	1,164,105	185,895
その他会議費	3,298,000	2,826,753	471,247
給与手当	5,200,000	5,003,615	196,385
福利厚生費	650,000	645,883	4,117
旅費・交通費	100,000	46,940	53,060
通信費	950,000	946,734	3,266
振替手数料	100,000	50,105	49,895
事務用品費	600,000	295,905	304,095
消耗品費	40,000	13,070	26,930
印刷製本費	80,000	41,125	38,875
修繕費	60,000	808	59,192
賃借費	250,000	278,460	△ 28,460
対外費	20,000	15,000	5,000
慶弔費	300,000	66,500	233,500
公租公課	30,000	1,500	28,500
雑費	150,000	106,488	43,512
固定資産支出	220,000	41,790	178,210
資産取得支出	220,000	41,790	178,210
予備費	1,000,000	—	1,000,000
当期支出合計(C)	41,313,000	36,037,206	5,275,794
当期収支差額(A)－(C)	△ 919,000	1,990,780	△ 2,909,780
次期繰越収支差額(B)－(C)	4,945,000	7,855,363	△ 2,910,363

■平成18年度 収支予算書(案)

平成18年 4 月 1 日～平成19年 3 月31日 (単位：千円)			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
①収入の部			
基本財産利息収入	60	60	0
会費収入（6 単体）	36,824	35,684	1,140
協定会費収入	3,000	4,000	△ 1,000
寄付金収入	200	200	0
雑収入	300	450	△ 150
退職引当取崩収入	4,233	0	4,233
当 期 収 入 合 計	44,617	40,394	4,223
前期繰越収支差額	7,855	5,864	1,991
収 入 合 計	52,472	46,258	6,214
②支出の部			
事業費	23,720	25,415	△ 1,695
学園援助費	2,500	2,500	0
学生・生徒活動援助費	2,500	2,500	0
学生・生徒奨励金	1,420	1,400	20
会報・出版費	7,480	8,100	△ 620
会報印刷費・取材費	3,200	3,800	△ 600
発送作業費	480	460	20
郵送費	3,800	3,840	△ 40
印刷費	1,250	1,550	△ 300
支部関係費	3,150	3,195	△ 45
維持会費還付金	600	800	△ 200
支部出張費	1,800	1,845	△ 45
支部総会費	250	250	0
支部関係雑費	500	300	200
人件費	4,220	4,120	100
給与手当	4,070	3,970	100
福利厚生費	150	150	0
特別事業費	500	1,700	△ 1,200
全国大会費	500	1,500	△ 1,000
全国大会準備費	0	200	△ 200
校友ネットワーク構築費	650	300	350
消耗雑費	50	50	0
管理費	18,974	14,678	4,296
総会費	1,500	1,500	0
本部会議費	1,633	1,350	283
その他の会議費	2,528	3,298	△ 770
人件費	5,850	5,850	0
給与手当	5,200	5,200	0
福利厚生費	650	650	0
旅費・交通費	50	100	△ 50
通信費	950	950	0
振替手数料	100	100	0
事務用品費	600	600	0
消耗品費	40	40	0
印刷製本費	80	80	0
修繕費	60	60	0
賃借費	250	250	0
対外費	620	20	600
慶弔費	300	300	0
公租公課	30	30	0
雑費	150	150	0
退職金	4,233	0	4,233
資産取得支出	670	220	450
資産取得支出	670	220	450
予備費	1,000	1,000	0
当 期 支 出 合 計	44,364	41,313	3,051
当 期 収 支 差 額	253	△ 919	1,172

(△印は前年度より減を示す)

広報部からのお知らせ

会員（OB,OG）が参加して得する平成18年度イベント情報				
5月28日	新宿校舎	校友会総会	総会、講演会、懇親会（立食）等	無料
8月19、20日	八王子校舎	理科教室	小中学生のお子様をもつ方は必見！！ お子様の夏休みの課題支援！理工系への啓発！	無料
11月 3 日	新宿校舎	ホームカミングデイ	招待卒業年度の方、講演会、懇親会等 懐かしい同期生を誘い合せ、終了後別途飲屋で2 次会へ！	無料
1 月14日	新宿校舎	校友会新年会	総会、講演会、懇親会（立食）等	有料

詳細やその他「得する」各種イベントの情報は下記会員情報のホームページをご覧ください。

会員情報ホームページ	
会報やアルバムなど会員固有の情報は下記ホームページでご覧になれます。	
http://www.kogakuin.or.jp/koyukai/koho	
H18年 5 月～H19年 5 月	ユーザー名： kogakuin パスワード： koyukai
平成19年度本会報の広告募集	

社団法人工学院大学校友会から年1 回発行「校友会報」誌に掲載する広告を下記の要綱により募集致します。

- 1．対 象：本学園卒業者（校友会会員）の所属する団体、組織、事業所等の広告
 - 2．価 格：A 4 サイズ。モノクロ 1 ページ：10万円 1/2ページ： 5 万円 1/4ページ：2.5万円
 - 3．募集締切：平成19年 3 月10日
 - 4．掲 載：平成19年度会報及びそのPDFをホームページに1 年間掲載
 - 5．原稿送付先：校友会事務局あてに郵送、メール等 Email jimul@kogakuin.or.jp
 - 6．原稿形態：Word文書又はイラストレイターのデータをメール又は印刷物を郵送。
 - 7．問合せ先：電話 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035 Email jimul@kogakuin.or.jp
- <ご参考> ・会報発行日：2007年 4 月末日 ・発行部数：約66,000部 ・配布先：校友会員・学内

編集後記

3 月後半になり、関東は好天に恵まれ 4 月上旬並みの暖か
さで桜の開花も進み、一分咲きの上野公園には 3 月最後の土
日とあって大勢の家族連れが繰り出している様子が放映され
ております。皆様は如何お過ごしでしょうか。

何時もながら、3 月 4 月は、校友会報や同窓会報の編集関
係者は、休日を返上することになります。そして会報が、皆
さまのお手元に届くのが、5 月初め頃になるのが通例です。

さて、本会報は、2 年目を迎えた 8 名の会報部員により編
集されたものであります。無論、執筆者初め部外の校友の方
々にも大変お世話頂きました。厚く御礼申し上げます。

昨年は、6 同窓会（機械、化学、電気、建築、高校、専門
の各系同窓会）の会員の皆様に拝読頂くことを念頭に入れ、
会誌のあるべき基本方針を検討した上で編集されたもので、
本年度もそれに準じて実施され、表紙から裏表紙に至る全て
の頁に担当責任者が割り当てられ、電子媒体にて効率よく原
稿の収集が行われました。また、収集原稿の全ては、一旦広
報部長による入稿状況のチェックを受け、印刷業者に渡され
ますが、これらは全て電子メールにて行われました。

今回の会報で特筆すべきことは、「支部だより」への投稿が
今までに無く多く嬉しい悲鳴を上げましたが、文字や行間を
考慮して全ての原稿を掲載することに致しました。

執筆者は基より、広報部長始め広報部理事の皆さんの真摯
な活動により無事に会報の発行が相整いました。本当にご苦
勞様でした。心よりお礼申し上げます。

また、会員の皆さまには、今後とも良き会報作りのための
ご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

片岡 平成18年 3 月25日(日記)

■広報部メンバー

- 広報担当副会長：片岡国牟（応化）
広報部部长：浅山行博（電気）
広報部理事：田村久義（機械）
広報部理事：小山内敏（応化）
広報部理事：名取勝敏（電気）
広報部理事：加藤隆弘（建築）
広報部理事：岡安 彰（高等）
広報部理事：佐藤敏勝（専門）

Tokyo Urban Tech ———		
工学院大学・校友会報 vol.127	発行所●社団法人工学院大学校友会	制 作●社団法人工学院大学校友会・広報部
	〒163-8677	印刷所●株式会社メディアオ
	東京都新宿郵便局私書箱第13号	〒101-0064
	東京都新宿区西新宿1-24-2	東京都千代田区猿楽町2-1-14
	☎ 03-3342-2064	A&Xビル
	☎ 03-3340-1649	☎ 03-3296-8088
	FAX 03-3342-2035	FAX 03-5280-9171
	E-mail:kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp	
	http://www.kogakuin.or.jp	